

### 事項一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件

八八八 七月十九日 立花閣東軍司令官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

寬城子日中兩國軍衝突ニ付報告ノ件

閣軍第二五一号 (七月二十一日外務省接受)

寬城子事件ニ関シ午後十時迄ニ得タル諸報告ヲ綜合スルニ左ノ如シ

- 一、事件ノ原因ハ寬城子ニ於テ滿鉄社員支那兵ニ傷ケラレタル為メ寬城子大隊副官ハ附近ニ露營中ノ支那營長ニ交渉ニ赴キタル時支那兵ノ射撃ヲ受ケ同副官及隨行ノ下士二名即死シタルヨリ始マリタルカ如シ
- 二、寬城子ニ露營シアリシ支那兵ハ約千五百ニシテ本日午後一時頃寬城子東方約一公里ヨリ攻撃ヲ開始シ守備隊ハ兵營附近ニ於テ防禦シ交戦約二十分ノ後日本領事、吉長道尹、高旅團長等ノ調停ニヨリ戦鬪ヲ中止セリ長春守備隊ハ一部ヲ以テ之ヲ増援シタルモ戦鬪ニ参与セス
- 三、我損害歩兵五三ノ第一大隊副官住田中尉(前電松岡大尉ハ誤リ)下士三、卒八戦死シ椎原中尉重傷、横山中尉、山口特務曹長下士以下十名負傷シ巡查一戦死セリ

十九日午前十一時頃滿鉄長春駅夫ハ寬城子露國鐵道附屬地中通過歩行中数日前哈爾濱ヨリ來春同地附近ニ露營中ノ吉林兵約二十名二団トナリ來ルニ會シタルガ同兵士等ノ挙動不穩ノ模様アリタルヲ以テ同人ハ道ヲ讓リタルニ支那兵ハ衝突シテ殴打昏倒セシメタリ折柄同所ヲ通りカカリタル本邦人之ヲ寬城子駐屯ノ我が守備隊ニ急報シタルニ依リ將校四名ハ兵數十名ヲ引率シテ暴行支那兵ノ來營地ニ赴キ該兵ノ隊長ト交渉中突然我が將校以下二対シ支那軍隊ヨリ一斉射撃ヲ加ヘタルヲ以テ我が守備隊ハ直ニ之ニ對シテ銃火ヲ交ウル事約二時間ニ亘リ右情報ニ接シ同地ニ走ケツケタル高旅長陶道尹等ノ制止ニ依リ支那軍隊ハ漸ク発射ヲ中止スルニ至レリ我が軍ノ即死者將校以下十六名内残殺セラレタル者四名重傷者十七名又同地ニ急行シタル我が警察官中一名即死シ居留民ニシテ弾丸ニ當リ輕傷ヲ負ヒタル者一名在リ尚支那兵ノ死傷者ハ不明ナリ委細後信

右北京奉天閣東長官ニ電報シ哈爾濱へ郵送セリ

八九〇 七月二十日 立花閣東軍司令官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

寬城子事件ノ善後處理ニ関シ請訓ノ件

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 八九〇 八九一

- 四、長春附屬地ト城内トノ境界日本橋ニ出シアリシ我監視兵(下士以下十五名)ニ對シ支那軍隊約二百八午後二時半頃ヨリ對岸家屋内ニ在リテ戦鬪ヲ準備シアルモ交戦セス
- 五、寬城子ノ支那軍隊ハ日支官憲ノ調停ニヨリ寬城子東方二十支里ニ後退セシメ事件ハ先ツ落着シタルカ如キモ守備隊司令官ハ第一大隊長ヲ直ニ公主嶺ヨリ長春ニ派遣シ尚本夜再ヒ不慮ノ事件勃発ノ虞アルヲ以テ公主嶺、范家屯ヨリ約四十名、四平街、昌図、開原ヨリ各約五十名ヲ長春ニ増加セリ
- 六、軍司令官ハ要スレハ鉄嶺隊ノ一部ヲ以テ長春ニ増援スル為メ出發準備ヲ命ジタリ

八八九 七月二十日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子露國鐵道附屬地内ニ於ケル日本軍ト吉林軍トノ衝突ニ関シ報告ノ件

第七二号

參發第二七二号 (七月二十一日外務省接受)

一、寬城子事件ニ對スル不取敢ノ処置ハ既報セシカ如ク一時寬城子支那兵全部ヲ寬城子ノ北方二十支里ニ後退セシメ尚目下出先ノ者ニテ善後策ヲ講シツツアルモ關係スル所大ナルヲ以テ何分ノ指示アリタシ

二、事件發生ノ為昨夜吉林ヨリ齋藤大佐、高士儻、陳外交課長及森田領事來長シ本朝「ハルビン」ヨリ來長セル等々力聯隊長ト共ニ本日現地調査ヲナス善又高山中將ヲ事件處理ノ為本日午前長春ニ出發セシム

八九一 七月二十日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子ニ於ケル日中兩國兵衝突事件詳報ノ件

附屬書 右報告書  
發第九二号 (七月二十八日接受)

大正八年七月二十日 在長春

領事 森田 寬藏(印)

外務大臣子爵内田康哉殿

寬城子ニ於ケル日支兩國兵衝突ニ関スル件

本件ノ大要ニ関シテハ不取敢電報ノ次第有之候処其詳細ノ事情ニ付別紙差進候間御査閱相成度此段及報告候 敬具  
写送付先 在支公使、奉天、哈爾濱總領事、関東庁長官、吉林總領事代理

(附屬書)

寬城子ニ於ケル日支兵衝突事件

一、勃発前ノ状況

張巡閱使孟督軍間確執問題ニ関聯シ過般來奉天軍北上セシ為ハ哈爾濱吉林方面ヨリ吉林軍統々当地方ニ集中シ省内ノ空気が頓ニ緊張シ來リ巷間又流言蜚語行ハレ内外人心動揺セル折柄該軍隊ハ盛ニ軍需品ノ輸送ニ要スル荷馬車ヲ徵発シ為ニ本邦居留民ノ營業上ニモ支障ヲ來セル現状ニ顧ミ当方ヨリ支那側ニ對シ附屬地内ニ於テ濫リニ徵発セサル様警告ヲ与ヘ現ニ二十七日東清鉄道東路司令官旅長高俊峯ハ附屬地内ニ於テハ絶対ニ馬車ノ徵発ヲ為サシメサル旨ヲ當方ニ誓約シタルニ不拘翌十八日ニ於テ支那兵ハ附屬地内ニテ邦人傭雇ノ馬車ヲ強要シ之ヲ制止セル警察官ニ暴行ヲ加ヘ負傷セシメタル事実アリ又支那兵近時其多数ヲ恃ミ或ハ我軍隊ヲ無視シテ軍用道路ヲ無斷通過シ或ハ守備隊兵舎附近禁煙

ノ場所ニ於テ喫烟スル者アリ歩哨之ヲ制止スレバ却テ銃ヲ擬スルガ如キ不遜ノ態度ヲ示セリト云フ蓋シ該兵ハ曩ニ久敷北滿ニ在リテ露國過激派攻撃ニ参加シ今又奉吉西軍對抗ノ現状ニ於テ軍心驕リ規律放縱ニ流レ甚敷無節制状態ニ在リ

一、勃発ノ原因

吉林軍混成第三旅歩兵第二團孟奎魁(孟督軍ノ甥ニ当ル督軍直系ノ軍隊ナリ)軍隊約一千名ハ寬城子我守備隊附近ニ幕営中ナリシガ十九日午前十一時半頃滿鉄長春駅々夫船津藤太郎ナル者同地仲通りヲ歩行中該兵約二十名二団トナリテ來レルニ出会ヒタルガ同兵等拳動甚タ不穩ノ模様見エタルヲ以テ同人ハ道ヲ譲リ行過キントシタルニ支那兵ヨリ故意ニ衝突シテ打倒シ蹶返シタルニ因リ船津ハ其不法ヲ難詰シタルニ理不尽ニモ更ニ其頭部ヲ毆打昏倒セシムルニ至リ折柄同地ヲ通り掛リタル一邦人之ヲ同地我守備隊ニ報シタルヲ以テ守備隊ヨリハ一面大隊副官住田中尉ヲシテ谷中尉下士卒四名ト共ニ邦人被害ノ現場ニ急行セシメ一面支那軍隊露營ノ天幕ヨリ約二百米突ナル寬城子中央東側村端迄將校ノ指揮ヲ以テ兵三十名警備ノ為メ出動セリ住田中尉以下

ガ支那露營地ニ到リタルトキハ被害者ハ已ニ他ノ邦人ニ助ケラレ我兵營ニ來リタル後ナリシヲ以テ直ニ事情調査ノ為メ支那軍隊ヲ訪問中松岡大尉同処ニ到リシヲ以テ同大尉交渉之任ニ當リタリ當時幕営ニハ第二營長ヲ除ク外團長初メ

シモ該戰鬪ニ干与シ居ラサルノ事実アリ  
一、戰鬪ノ經過

第一第三營長等不在ナリシガ右暴行兵士ハ第二營所屬ノモノナル可シトノ第三營長ノ言ニ基キ第二營ノ連長ニ取調方ヲ依頼中恰モ同營長ノ歸來スルニ会シ同人ニ取調方ヲ依頼シタルニ同營長ハ直ニ之ガ調査ヲ行フ可キニ由リ一先引取ラレタキ旨ヲ申出タルモ我將校ハ直ニ調査方ヲ要求セル際孟團長帰營スヘシトノ情報ニ由リ該營長ハ休憩ノ為メ我將校ヲ天幕内ニ請ヒ入レントスルノ一剎那突然數發ノ彈丸天幕ノ間ヨリ飛來シタリ該營長勵声之ガ中止ヲ命シタルモ更ニ効果ナク幕営附近ヨリ一斉ニ激烈ナル射撃開始セラレタリ是ニ於テ日支將校等ハ四方ニ離散シタルガ營長等ノ我將校ニ對スル態度ハ終始慙慙ニシテ厚意ノ態度ヲ以テ折衝シタル事ハ松岡大尉ノ親敷語ル処ニシテ以上ノ事實ハ主トシテ守備隊側ヨリ聞知シタル処ナルガ支那側ノ調査ニ付テハ今ニ不明ナルモ支那兵士等ノ此暴挙ハ船津ノ毆打ニ對シ我軍隊ヨリ復讐シ來レリト解シタルモノノ如ク尚ホ將校ハ少

戰鬪ノ經過ニ付守備隊ヨリ知リタル所ニ依レハ前記松岡大尉ハ急遽現場ニ引揚ケントシタルモ何分彈丸雨下シテ進行スル能ハス遂ニ伏臥スルノ不得已ニ至リタルガ支那兵ハ予メ射撃ノ準備整ヒ居タルモノノ如ク幕営地前ニ散開シ前記警備ノ為メ寬城子中央車站ニ佇立シ居タル我三十名ノ部隊及守備隊營舎ニ對シ射撃ヲ集中シタリ該部隊ハ何等戰鬪ノ準備ナキニ此唐突ナル射撃ニ会ヒ散開余裕ナク一時伏臥応戰シタルガ支那兵益其數ヲ増加シ我部隊ニ死傷者頻出セルヲ以テ其後方ニアリタル家屋ニ入りタルニ同地ニ駐在セル支那巡警數名忽然背後ヨリ射撃シ腹背部ニ受クルニ至リタルヲ以テ更ニ露國將校官舎ノ線ニ退却セリ兵舎ニアリタル守備隊長ハ此突発的戰鬪ニ對シ金子中尉ヲ指揮セシメ交戰部隊応援ノ為メ兵三十名ヲ前方ニ派シタルモ彈丸猛烈ニシテ前進スルコト能ハス練兵場中央ニアリテ散開シ支那兵ニ對シ射撃ヲ開始スルト同時ニ長春獨立守備隊ニ電話ヲ以テ増援ヲ求メタリ此時彈丸益烈數練兵場ノ線ヲ維持スルコト能ハサルヲ以テ全部退却兵舎ヲ固守スルノ手配ヲ為セルニ

際シ長春守備隊ヨリ將校以下二十名機関銃一挺援隊トシテ到着シタルヲ以テ機関銃ヲ兵舎ノ東側ニ予備トシテ配置セリ恰モ午前中幸領トシテ長春駅ニ在リタル吉井軍曹ハ銃声ヲ聞キ直ニ部下五名ト共ニ敵ノ翼側高地ニ前進シテ射撃シ又長春兵站支部副官山内砲兵中尉ハ勤務兵三十四名ヲ指揮シ吉井軍曹ノ右翼ニ連リテ敵ノ背後ヲ射撃シタルヲ以テ支那兵ハ漸次北方ニ退却スルニ至レリ此時午後二時半ナリ

一、戦闘ノ中止  
当日正午頃ヨリ他用ヲ以テ高旅長陶道尹等當館ニ來訪中寬城子ニ於テ本邦人遭難ノ報同地守備隊ヨリ電話ヲ以テ通知シ來リタルヲ以テ陶道尹ニ對シ所屬隊長タル孟團長ニ帰營查弁方ヲ依頼シ居ル矢先更ニ日支兵衝突ノ急報ニ接シ居合セタル一同高旅長陶道尹啓道尹公署外交科長新山官補橋本署長糟谷書記生等自働車ニテ寬城子守備隊兵營ニ急行シ高旅長ハ直ニ親ラ支那軍隊ニ赴キ制止ノ結果一先射撃ヲ中止シ我軍隊モ全ク射撃ヲ中止シタルガ死傷者ノ收容開始ニ當リ猶ホ幕營附近ヨリ発火スルモノアリ高旅長再ヒ支那軍隊ニ至リ絶對的ニ射撃中止ヲ命シ又支那幕營附近ニ在ル戦死者收容ノ為メ支那軍隊全部ヲ撤退セシメ高旅長ハ後ニ至リ

現場ニ歸來セル孟團長我收容班ト同行死傷者ヲ收容シタリ

一、死傷者及其狀況  
本官ハ吉林ニ於テ本件勃発ノ報ニ接シ同日午後八時吉林軍師長高士價齋藤大佐等共ニ來長本官及齋藤大佐ハ直ニ寬城子守備隊兵營ニ赴キ高旅長陶道尹林守備隊長鈴木憲兵分隊長橋本警視新山官補等ト共ニ我戦死者ノ屍体ヲ檢視セリ支那軍隊幕營附近ニ於テ斃レタル者ハ残忍ナル虐殺ヲ受ケ或ハ耳ヲ削ラレ或ハ眼球ヲ剔出セラレ或ハ顔面全部無數ニ切り刻マレ且其身辺ニ携ヘタル武器彈丸ハ勿論所持品ハ悉ク掠奪一空シ去ラレ其慘状目モ當テラレサル状態ナリ我軍ノ死傷者ハ死者十八名(内一名負傷後死亡)負傷者十七名ニシテ支那側ノ死傷者ハ今猶不詳ナルモ我軍ニ比シ輕微ナルガ如クコハ我軍ニ於テハ全ク備無キニ當リ不意ニ射撃ヲ蒙リタルニ基因セリ今我死傷者ノ氏名ヲ挙クレハ左ノ如シ

- 戦死者 步兵中尉 住田 米次郎
- 步兵軍曹 森井 音吉
- 同軍曹 白羽 治三郎
- 同 和田 仙次郎
- 同 上等兵 村井 恒治

- 上等看護卒 下出 則通
- 同 一等卒 出尾 栄吉
- 同 足高 奈良造
- 同 井上 俊三
- 同 池田 善吉
- 同 一等卒 山本 龜太郎
- 同 前川 正一
- 同 辻本 順一
- 同 吉岡 米吉
- 同 二等卒 乾 一男
- 同 中尾 儀一
- 同 中島 新太郎
- 同 步兵中尉 椎原 修一
- 負傷者 歩兵中尉 横山 鑑
- 同 歩兵中尉 川原 直一
- 同 同少尉 山田 貫造
- 同 同特務曹長 堀川 惣一
- 同 同 一等卒 沢 辺 清太郎
- 同 同 一等卒 高岡 佐一郎

- 步兵二等卒 増井 藤四郎
- 同 菊川 儀末
- 同 谷孫 十郎
- 同 杉本 喜三郎
- 同 金水 滝藏
- 同 杉本 龜太郎
- 同 寺田 藤地
- 同 丸谷 角治
- 同 稲葉 善次郎
- 同 稲田 末吉
- 同 中西 浅治郎

右ノ外事件突発ニ際シ我警察署ヨリ神田警部泉警部補以下巡查五名自働車ニテ馳付タルニ飛彈猛烈ニシテ前進スル能ハス避難中長田巡查即死シ邦人ニシテ彈丸ニ當リ負傷セルモノ一名アリ又支那軍隊野営地ト我守備隊兵舎トノ間ニ介在セル料理店松ノ家ハ被害少ナカラザル見込ナリ

八九二 七月二十一日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子地方ニ對スル暫定治安維持ニ付日中両

国官憲問ニ協定ノ件

別電 同日在長春森田領事發内田外務大臣宛別電  
右協定

第七三号

往電第七二号ニ関シ

差当り当地ノ治安維持ニ就キ二十日高師長、高山守備隊司令官並本官當館ニ会合シ別電ノ通り協定ヲ為シ支那側ハ二十一日ヨリ本協定ノ実行ニ着手シタリ

在支公使、在奉天總領事及関東庁長官へ電報セリ  
在哈爾濱總領事へ郵送セリ

(別電)

七月二十一日在長春森田領事發内田外務大臣宛電報第七三号  
寬城子地方ニ対スル暫定治安維持ニ付日中兩國官憲間協定  
第七三号(別電)

暫定治安維持法(督軍問題終了迄)

(一)寬城子ニ於ケル巡警ヲ全部七月二十日引払フコト

(二)第一着ニ南嶺ノ砲兵ヲ附屬地ヨリ三十支里以外ニ退去セシムルコト

(三)第二着ニ歩兵及騎兵夫々従来表中將ノ部下ナリシモノニ百五十名ヲ限り城内及北門外ニ残留セシメ其他ノ附屬地

至急 秘第七八号

(七月二十二日接受)

今回寬城子方面ニ發生セル不幸ノ出来事ニ関シテハ陸軍側並ニ領事館側ノ報告区々ニ涉リ事実ノ真相ヲ得難キニ付事件ノ發生動機事実ノ真相ヲ調査スルノ必要アルヲ認め立花軍司令官ト協議シ当庁ヨリ赤塚外事部長軍司令部ヨリ浜面參謀長ヲ急派スルニ決定シタルニ付テハ本件ニ関スル將來ノ進行方ニ付テハ右調査ヲ俟タルルコトニ致サレタシ  
在支公使ニ転電セリ

八九四

七月二十一日

長春市民会ヨリ  
田中陸軍大臣宛(電報)

長春地方ノ治安確保ニ関シ請願ノ件

(七月二十四日接受)

七月十九日寬城子ニ於ケル支那兵暴行事件ニ関シ我忠勇ナル將士ノ死傷数十名ヲ出シタルハ誠ニ痛惜憤慨ニ堪ヘサルノミナラス一般同胞ノ不安ヲ感スルコト甚シキニ依リ二十一日日本人大会ヲ開キ左ノ事項ヲ決議セリ因リテ我等ノ意思ノアル所ヲ參酌シ適當ノ御処置アランコトヲ請フ  
長春附屬地ヲ中心トシテ二〇哩以内ニ支那兵ヲ駐屯セシメサルコトヲ支那政府ニ交渉アリ度キコト

周囲ニアル軍隊ハ總テ附屬地ヨリ三十支里以外ニ退去セシムルコト但シ南嶺ノ歩兵四營輜重兵三營ヲ除クモ此ノ部隊ニ対シテハ支那側ニ於テ責任ヲ以テ嚴重之ヲ取締ルコト

(四)南嶺ノ砲兵ノ退去ハ即時之ニ着手シ七月二十一日迄ニ完了スルコト其他ノ附屬地ノ周囲ニアル軍隊ノ退去ハ其大部分ヲ七月二十二日迄ニ残余ヲ七月二十四日迄ニ完了スルコト

(五)今後附屬地ヨリ三十支里以内ニ軍隊ヲ入レントスル場合ニハ在長春領事ニ対シ通知ノ上其ノ承認ヲ經可キコト

(六)此ノ際一切附屬地ニ支那兵ヲ出入セシメザルコト但シ日本領事ノ許可書ヲ有スルモノヲ除ク

大正八年七月二十日

註 右暫定治安維持法ノ署名者ハ領事森田寬藏、師長高士儺及  
獨立守備隊司令官高山公通ナリ

八九三

七月二十一日

在旅順林関東庁長官ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ノ実情調査ノ為赤塚外事部長等ヲ  
現地へ急派ノ件

將來長春ノ絶対安全ヲ確保スルニ足ル有力ナル軍隊ヲ永久ニ駐屯セシメラレ度キコト

八九五

七月二十一日

浦潮派遣軍參謀長ヨリ  
福田參謀次長宛(電報)

寬城子事件ニ関シ同地ニ派遣ノ我聯隊長報告  
電報ノ件

浦參第一三六二号

(七月二十三日外務省接受)

北滿報

(前段省略)

死傷多キニ依リ其直後ニ在リシ家屋内ニ入りシニ其家屋ニ隣接シテ屯在セル支那巡警モ支隊ト共ニ射撃セシヲ以テ四周ニ敵ヲ受ケ二十四名ノ死傷者ヲ出セルヲ以テ谷中尉以下六名ハ一方ヲ突破シテ露国官舎ノ線ニ退却ス此時大隊長ハ全員ニ非常呼集ヲ命シ金子中尉ニ兵舎ニ在リシ約三十名ヲ指揮セシメ交戦中ノ部隊ニ増加セシメントセシモ以上ノ情況ナルヲ以テ已ムヲ得ス練兵場中央ニ停止シ敵ノ左翼ニ対シ射撃ヲ開始セリ時恰モ獨立守備隊ヨリ二十名機関銃一ノ到著シタルニ会シタリ是ヨリ曩キニ率領ノ為長春停車場ニ在リシ吉井軍曹ハ銃声ヲ聞キ部下五名ト共ニ敵ノ翼側ニ向

ヒ又兵站支部長山中尉ハ諸勤務兵ヲ驅リ集メ約三十四名ヲ指揮シ吉井軍曹ノ右翼ニ連リ敵ヲ射撃セリ為ニ一時我練兵場ヲ突破セントシタル支那兵ハ漸次北方ニ退却ヲ開始シ時正ニ午後三時十分ニシテ敵ノ射撃漸ク衰フルニ至レリ午後三時支那側ヨリ高第三旅長陶道尹罷外交科長日本側ヨリ新山領事官補、橋本警務署長自動車ニテ我カ兵營ニ來著セリ右ノ來著ニ依リ大隊長ハ支那側ニ對シ射撃ヲ中止スヘキヲ要求シ我隊モ全ク射撃ヲ中止セリ支那軍隊ノ損害ハ明カナラサルモ今朝戰場ニ遺棄セル屍体八ナリ事件ノ原因ハ前述ノ如ク單簡ナルカ如キモ射撃ヲ開始前ニ於テ支那軍隊ハ銃ヲ地上ニ横タヘ恰モ徒手ナルカ如ク装ヒ遽ニ散開シテ集中射ヲ行ヒ而モ將校ノ指揮セルニ於テハ此裏面ニ何等カ予メ計畫セシニ非サルカヲ疑フ昨夜遅ク高士債ハ督軍ヲ代表シ長春ニ來ル今朝九時半ヨリ本職並ニ高士債代理王团长齋藤大佐林少佐ト共ニ親シク戰場ヲ視察シ支那軍隊ノ散開セシ右ヨリ左ニ亘リ並ニ谷中尉ノ四周射撃ヲ受ケシ家屋ノ慘愴タル情況並ニ我虐殺サレタル戦死者十七名ノ悲惨ナル状態ヲ視察シ支那側ニ確認セシメタリ同時ニ支那側ニ對シ一、横暴ナル支那軍隊ニ對シ事件ノ真相ヲ嚴密ニ取調ヘ明

確ニスルコト

- 二、寬城子ニ在ル支那軍隊ハ全部太平山以北ニ撤退スルコト(目下実施中)
- 三、寬城子ニ在ル支那巡警ヲ本日午後三時迄ニ撤退スルコト

四、我戦死者ノ銃器貴重品ヲ速カニ返還スルコト

以上ノ四件ヲ要求シテ別レタリ依テ目下ノ狀況ニテ当地ニハ兵力増加ノ必要ナキモ長春及其附近ニ在ル支那兵ハ約六千ニシテ之ニ對スル我獨立守備隊ハ目下四中隊現在ス我戦死者ニ對シテ有ユル残虐ヲ極メタル状態ハ日本官憲及支那官憲同行シ後証ノ為一名宛撮影シ置キタリ

八九六 七月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在長春森田領事宛(電報)

寬城子事件發生ノ原因其他ノ実情詳報方訓令

ノ件

第五二号

貴電第七二二号ニ關シ帝國政府ハ最モ公平ニ本件事実ノ真相ヲ查明シ列國ヲシテ我公正ナル政策ヲ諒得セシムルニ足ルヘキ解決方法ヲ講スルヲ急務ト認ムルニ付貴官ハ至急(一)本

件發生ノ動機ハ滿鉄駅夫ノ衝突以外他ニ原因ト認メラルヘキ事実ナキヤ又駅夫ノ被害ハ御來示ノ如ク其曲全然支那兵

八九七 七月二十二日 在中国小橋公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ關シ中国陸軍部ヨリノ使者來訪

シテ遺憾ノ意ヲ表シタル上關係ノ团长營長等

免職ニ決定ノ旨内話シタル件

第一〇三五号 (七月二十三日接受)

ニ在ル次第ナリヤ(二)我將校等支那兵駐屯地ニ赴キ交渉ニ及ヒタル際ノ彼我ノ態度及応答振並ニ銃火ヲ交ユルニ至リタル顛末特ニ何レガ果シテ先ヅ手ヲ下シタルヤノ点(三)我軍隊ハ何故ニ普通ノ警察事故ト認メラルベキ事件ニ關シ当然ノ保護機關タル我領事館ニ事件ヲ移送スルコトナク自ラ支那軍隊当局ニ直接ノ交渉ニ及ヒタル次第ナリヤ若シ又領事館ニ予メ何等協議アリタルモノトセハ領事館ニ於テハ如何ナル措置ヲ執リタルヤ等ノ諸点ニ關シ彼我双方並ニ第三者ノ有スル的確ノ証拠ニ基キ詳細ニ事実ノ真相ヲ留メ電報アリタク尚若シ我方ヨリ何等挑発的行為ナキニ吉林兵ニ於テスル暴行ニ出テタルモノトセハ右ハ或ハ張作霖ニ於テ吉林側ニ對スル我反感ヲ煽ルカ為メ内密右吉林軍隊ヲ使噓シ我ニ對シ故ラニ事ヲ構ヘシメタルモノニアラズヤトモ疑フモノアリ其辺ニ就テモ篤ト御探究ノ上貴見ト共ニ回電アリタシ

奉天へ転電アリタシ

北京関東庁へハ当方ヨリ直接転電スミ

七月廿一日張陸軍次長ヨリノ使トシテ來訪寬城子日支兵衝突事件ニ關シ日支兩國ノ關係漸次親善ニ赴ク可キノ時ニ際シスル不祥事ヲ惹起シタルハ切ニ遺憾トスル所ナルニ付不取敢本使ニ對シテ右ノ趣ヲ陳述スル趣ヲ述ベ張ハ尚一面不取敢本件關係ノ团长及營長ヲ免職スルコトニ決定シタル旨内話セリ又同日日本使ハ總理代理ニ会見ノ節同總理代理ヨリ本件ニ言及シ未ダ詳細ナル報告ニハ接シ居ラザルモ本國領内殊ニ鐵道附屬地内ニ於テ本件ノ發生ハ甚ダ遺憾トスル処ニシテ大總統モ本件報告ニ接スルヤ大ニ激怒シ直ニ該团长及營長ヲ免職スルノ外張巡閱使及鮑督軍ニ對スル嚴重查明方ノ密令ヲ發セル旨申述ベタリ

長春ニ転電シ長春ヨリ関東長官、奉天、「チチハル」ニ転電セシメタリ

八九八 七月二十二日

在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ノ責任者処分ニ関スル大總統令公  
布ノ件

第一〇四一号

(七月二十三日接受)

寬城子事件ニ関シ張巡閱使郭吉林省長ノ電請ニ基キ該團長  
營長及師長高士儻ヲ免職シ張巡閱使及新任ノ鮑督軍ニ查弁  
ヲ命ジ孟恩遠モ亦規律不嚴明ノ咎ヲ免レ難ク鮑貴卿ヲシテ  
善後処分ヲナサシメ又孟恩遠ハ事務引継以前ハ軍隊取締秩  
序維持ノ責ヲ免レ能ハザル旨七月二十二日付大總統令公布  
セラレタリ(七月二十二日)

八九九 七月二十二日

在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ孟恩遠ヨリ大總統其他宛電

報内容報告ノ件

第二〇〇号

(七月二十三日接受)

長春事件ニ関シ孟恩遠發大總統國務院參謀部陸軍部外交部  
張巡閱使宛電報概要左ノ通

本月十九日長春二道溝駐在吉林陸軍第三混成旅歩兵第二團

公第二九七号

(七月三十一日接受)

大正八年七月二十三日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

往電第一〇四一号本件ニ関スル大總統令全訳左ノ通

東三省巡閱使張作霖吉林省長郭宗熙電呈ニ拠ルニ吉林軍  
カ長春二道溝地方ニ在リテ日本兵ト衝突シ互ニ死傷アリ  
現ニ彈圧制止シタリ云々トアリ該團營カ長春ニ駐劄シ近  
隣ノ軍ニ接スル慮ニ如何ニモ節制申明スヘキニ乃チ平時  
漫ニ約束スル所ナク該團營長ハ突ニ咎ヲ辭シ難シ陸軍部  
ヲシテ職名ヲ查明シ先ツ免職セシム師長高士儻力擅ニ軍  
隊ヲ長春附近ニ調集シ重案ヲ釀致セルハ尤モ謬妄ニ屬ス  
師長ノ職務ヲ免シ一律ニ巡閱使張作霖及新任ノ鮑督軍ヲ  
シテ切実ニ查弁セシム孟恩遠ハ軍符ヲ縮シ紀律ヲ嚴申ス  
ル能ハス亦タ応ニ得ヘキノ咎アルモ既ニ転任シタレハ鮑  
貴卿ヲシテ迅速赴任交替シ一切ノ善後処置ヲ為サシム該  
地方ハ重要ニシテ孟恩遠ハ事務引継以前仍チ担当サニ軍隊  
ヲ約束シ秩序ヲ維持スヘク転任ヲ命セラレタリトノ故ヲ

一一 寬城子ニ於テ日中西國軍隊衝突一件 九〇一

ノ兵士ハ日本人カ防禦線ニ近ツクヲ以テ之ヲ阻止シタルニ  
該日本人ハ聴カスシテ喧嘩シ微傷ヲ蒙リテ去リ守備隊兵士  
四五十名ヲ呼来リテ我軍ノ駐在地点ニ到リ発砲射撃セルヲ  
以テ我軍ニ於テモ発砲シテ防禦抵抗ヲ為シ互ニ死傷者アリ  
タルカ第四旅長高峰ハ警察隊々長コウギザンヲ伴ヒ長春  
道尹及長春日本領事ト共ニ現場ニ赴キテ雙方ヲ鎮圧シ我軍  
ハ直ニ射撃ヲ中止セリ然ルニ兩國軍隊ノ仲裁ニ赴キタル營  
長蔡福ハ日本軍ニ抑留セラレテ未タ帰來セストノ報告ニ接  
シタルニ依リ直ニ電話ヲ以テ我軍ニ伝令シテ二十里以外ノ  
地点ニ撤退セシメ竝第一師々長高士儻ヲシテ在吉林森田總  
領事ト同時ニ現場ニ赴カシメ事実ヲ調査シテ適宜ノ交渉ヲ  
行ハシメ以テ本件ノ迅速結了ヲ期セリ今ヤ市場人心齊シク  
靜安ナルコト常ノ如シ本件ノ原因実情死亡人数交渉經過等  
ニ至リテハ更ニ詳報スヘシ云々

在支公使關東厅长官長春吉林へ電報セリ

九〇〇 七月二十三日

在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子事件責任者処罰ニ関スル大總統令訳文  
送付ノ件

以テ責任ヲ免ルル能ハサルナリ此ニ令ス  
右及報告候也

本信写送付先 奉天、長春、吉林、齊々哈爾各領事

九〇一 七月二十四日

在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道寬城子駐屯ノ中国守備兵撤去ニ関シ  
關係列国ニ対シ松平政務部長ヨリ釈明スル様  
取計方稟請ノ件

第八二号

(七月二十五日接受)

拙電第七二号ノ件ニ関シ支那側ト協定ノ結果東支鐵道寬城  
子駐在ノ支那鐵道守備兵(不明)兵モ撤去セシムルコトト  
ナリタル処右ハ列国ノ間ニ協定シタル守備兵ヲ關係列国ニ  
何等ノ打合せヲモ為サズ撤去セシメタル次第第二付縱令一時  
ノ弁法(督軍問題解決マデ)ナリト云ヘ列国ヨリ詰問ヲ受  
クルコトナシトモ限ラズ就テハ右ハ一刻ヲモ猶予スル時ハ  
再ビ衝突ノ虞アルニ依リ總テ此際衝突ノ原因トナル可キモ  
ノヲ除去スル為一時権宜ノ処置ヲ取リタル次第ナルコトヲ  
浦潮政務部長ヨリ進ンデ列国委員ニ説明シ置クコト必要ナ  
リト思料セラルルニ就テハ御異存之レ無クバ政務部長へ御

電報御取計ヲ請フ

右関東長官松平政務部長へ電報セリ

九〇二 七月二十四日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ中国側ノ調査結果ニ付長春

道尹談話ノ件

第八三号

(七月二十八日接受)

寬城子日支兵衝突事件ニ関スル支那側ノ調査ニ就キ当地道尹ハ二十三日当該支那軍隊孟团长ノ通知ニ接シタル趣ニテ其ノ内容ニ付道尹側ノ言フ所ニ拠レハ本件發生ノ原因ハ何方ノ調査ト全ク一致セリ即チ一日本人カ支那兵ニ依リ毆打セラレタル廉ヲ以テ数名ノ日本將校ハ兵数十名ヲ引率シテ幕営ニ到リ門ヲ破壊シ第一營長ニ面会シ取調ヲ求メタルニ同營長ハ之ヲ諾シ取調ノ必要上先ツ支那兵全部ヲ天幕内ニ入ラシメントシタル利那天幕ノ後方ヨリ数発ノ銃声起リ不審ヲ懷ケル折柄更ニ日本兵ニ対シ射撃ヲ開始シタルヲ以テ勵声制止スルモ之ヲ聴カズ日本兵亦応戦スルニ至リタルニ依リ同營長ハ有合セタル白布ヲ打振り日本側ニ発射ノ中止方ヲ合図シタルカ中止セス益戦闊拡大シ交戦中該營長ハ日

九〇四 七月二十五日

在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子日中兵衝突事件ニ関シ赤塚外務部長ヨ

リ関東長官宛電報転電ノ件

第九二号

(七月二十七日接受)

赤塚総領事ヨリ左ノ通

外事部長ノ資格ヲ以テ関東長官へ左ノ通電報シタリ

日支兵衝突事件ニ関スル事実ノ調査ハ別電第一号ノ通りナル処更ニ衝突ノ原因ニ関スル判断左ノ通

一、寬城子ニ於ケル日本守備隊兵舎ト支那兵幕営地トノ間隔ハ約百米ニシテ一方衆ヲ恃ミ動モスレバ小數ナル日本兵ヲ侮ラントスル節制ナキ支那軍隊ト他方支那兵ニ対シ自信ヲ有スル日本軍隊トガ斯ク近距離ノ間ニ屯營スル時ハ其ノ間勢衝突ノ起ルベキハ蓋シ免レ難キ処ニシテ今回事件ノ原因ハ支那兵ガ斯クノ如キ近距離ニ幕営シタル當時既ニ胚胎シタルモノト認メラル

二、更ニ衝突前ニ於ケル兩軍隊ノ關係ヲ見ルニ彼我責任將校ノ間ニハ多少ノ往復アリテ互ニ円満ノ解決ヲ結バン事ニ努メタル事実アリト雖同時ニ兩軍隊ノ間ニハ互ニ感情

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九〇四

本兵ノ為ニ逮捕セラレタリ今日迄判明シタル支那兵ノ死者ハ將校二下士卒十(不明)負傷者十二ナルモ右ノ外尚死者アル見込ナリト又当地支那官憲側ニテハ右邦人ニ危害ヲ加ヘタル暴行兵竝最初発射シタル支那兵ハ奉天ヨリノ間者ニアラズヤト觀察シ居レリ

北京、奉天、吉林及旅順へ電報セリ

九〇三 七月二十五日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

東支鉄道寬城子駐屯ノ中国守備兵ハ其儘トス

ルニ決セルニ付松平部長ニ電訓方ノ件

第八七号

(七月二十七日接受)

赤塚外事総長并ニ浜面參謀長ト打合せノ上東支鉄道寬城子駐屯ノ支那鐵道守備騎兵ハ其ママトナシ置クコトニ決セリ就テハ本件ニ関スル往電第八二号申請ノ浦塩列國委員ニ対スル説明ハ自然不必要トナリタルニ付右拙電ニ基キ既ニ政務部長ニ御電訓済ミナラハ右御合ノ上重ネテ同部長ニ可然御電訓ヲ請フ

松平政務部長在支公使関東都督へ電報セリ

ノ疎隔ヲ来スベキ二三ノ事実モアリタル矢先ニ去ル十八日長春ニ於テ支那兵ノ附屬地通行竝附屬地内ノ車馬徵發ヲ日本官憲ニテ差止メラレタル事実ハ益々支那兵ノ惡感ヲ激増シタルモノノ如ク支那兵ガ第一回長春附屬地ニ於テ我巡查ニ暴行ヲ加ヘ第二回ニハ今回事件ノ発端ヲナセル滿鉄使用人ヲ毆打シタルコトハ恐ラク此感情ノ衝突ニアラザルカト察セラレ

三、当日我守備隊大隊長ガ住田副官ヲ支那幕営ニ派遣シ(下士二、通訊代用兵一、看護卒一、兵卒六ヲ隨へ)加害取調ノ要求ヲナシタル際大隊長ニ於テハ万一ノ場合ヲ慮リ支那兵幕営地ノ正面間近ナル本邦人附屬松野屋附近迄別ニ兵三十名ヲ派遣シ置タル事実ハ固ヨリ大隊長ノ周到ナル用意ニ出ヅルコト勿論ナリト雖亦以テ當時支那兵トノ感情面白カラザリシコトヲ感シ居リタルガ為ナルベク斯ノ如キ情勢ノ存在スル際松岡大尉ガ幕営ニ至リ交渉中本件毆打事件ノ暴行者ナルカノ疑アル支那將校及兵卒各一名逃亡ヲ企テタルヲ以テ急遽呼戻サシメ尚交渉中支那兵ノ逃亡見張トシテ我兵卒一名ヲ前方二十米ノ地点(幕営ノ中間附近)ニ派遣シタル事実ト松野屋附近ニ我

三十名ノ兵ヲ備ヘタル事案トハ恐ラク右支那兵ノ激昂誤解ノ因トナリ遂ニ其ノ暴挙トナリタルモノナランカトモ認メラル

四、尚本件ハ吉林側又ハ張作霖或ハ南方派ニ於テ煽動ノ結果日本交渉ノ端ヲ啓カシメ之ヲ利用シテ自己ニ有利ナル政争ノ具ニ供セントセシモノニ非ズヤトノ疑ヲ生ズルモノアルモ何レモ其ノ証跡ヲ認ムル能ハズ森田領事ハ本電ト同様ノ見解ヲ有ス

本電ハ赤塚總領事ヨリ外務大臣及公使ニ電報シ置キタリ

九〇五 七月二十七日 立花関東軍司令官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

寬城子事件發生前ニ於ケル日中兩國兵ノ状態

及相互感情ニ関シ報告ノ件

閱參發第三〇八号

參謀長ヲ長春ニ派遣シ取調ベシメタル結果次ノ通り報告ス  
事件發生前彼我ノ状態及日支兩國兵ノ關係

一、奉、吉、確執問題ニ関連シ吉林軍ハ各方面ヨリ長春附近ニ兵力ヲ集中シ其數一万余ヲ降ラス殊ニ七月十三日以来奉天軍ノ北上シ兩軍ノ状況切迫スルニ從ヒ吉林軍ノ殺氣

テ或ハ日本兵ニ對シテ不快ノ感ヲ懷キシモノモアルナラシ又此支那兵ハ昨春哈爾濱ニ於テ過激派暴動ノ際戰ハスシテ之ヲ降伏セシメタル以來益々得意トナリ日本軍ニ對シテモ往々輕侮ノ状ヲ現ハスコト尠ナカラサリキ從來日本兵モ亦支那兵ヲ輕蔑スル傾向アリシカ故ニ何等カノ動機ヲ与フレハ彼我ノ衝突ハ容易ニ起リ得可キ状態ナリシ然レドモ今回事件ニ關係アル支那軍隊ノ將校ト我將校トハ寬城子ニ於テハ互ニ往来シ四滿ナル交際ヲナシアリキ殊ニ住田副官ハ衝突ノ前日支那幕營ニ將校ヲ訪ヒ其饗応ヲ受ケタリ

三、本事件ノ支那軍隊ハ混成第三旅ノ第二團ニシテ其第一營ハ七月十日頃第三營ハ十七日何レモ哈爾濱方向ヨリ下車シタルモノニシテ寬城子我守備隊トハ何等旧知ノ關係アラス

四、寬城子住民ノ言ニ依レハ第一第三營ハ概シテ温良ナルモ第三營ニハ不良ノ兵卒多ク殊ニ五人組ト称スル乱暴者アリテ一般人民ヲ苦シメ居リタリ

五、支那軍隊ハ列國ノ委任ニヨリ当然寬城子附屬地ヲ警備スヘキモノナルモ實際ニ於テハ支那軍隊(將校以下二十

漸次向上シツアルヲ見タリ

二、支那兵ハ其多キヲ恃ミ屢々禁ヲ犯シテ長春附屬地ヲ武装ノ儘横行シ或ハ同地内ニ於ケル車馬ヲ徵發シ居留民營業上支障尠ナカラサルヲ以テ十七日領事ハ支那側ニ對シテ警告スル所アリタルニ拘ハラズ翌十八日支那兵ハ邦人傭雇ノ馬車ヲ強徵シ之ヲ制止セル日本警察官ヲ負傷セシメタルヲ以テ兩國当局者協議ノ結果支那兵ハ武装セサル单独兵ト雖モ特ニ領事ノ証明ヲ有スルモノニ非レハ長春附屬地内ニ入ルヲ禁止セラレタル為支那兵一般ニ惡感ヲ起シアリシモノノ如シ特ニ寬城子幕營部隊ハ長春城内ニ往復スルニモ附屬地外ヲ遠ク迂回スルヲ以テ其兵卒中往々不平ノ声ヲ洩シタルモノアリ

支那兵ハ寬城子、長春附屬地間ノ我軍用道路ヲ無断ニ通過シ或ハ寬城子停車場附近禁煙ノ場所ニ於テ喫煙シ或ハ時々我歩哨ヲ脅シ或ハ哨則ヲ犯ス等我軍隊ヲ侮蔑シ不遜ノ態度ニ出ツルモノ尠カラス(以上ハ必スシモ今回ノ衝突シタル軍隊ノ行為ニ非ズ)殊ニ今回事件ニ關係アル支那軍隊ハ昨夏以來北滿地方ニアリテ鐵道守備ノ任ニ從事セシ際一小事ノ誤解ヨリ時々日本兵ト衝突セシコトアリ

五名)及巡警(十八名)只列車發著ノ際監視ノ為停車場ニ到ルコトアルノミニシテ他ニ何等警備ノ任ニ當ルコトナシ又露國兵ハ三四十名屯在シアルモ停車場ノ收入金ヲ哈爾濱ニ護送スルノミ而シテ從來附屬地及其附近ニ馬賊等出現スル時ハ支那軍隊ヨリ直ニ我守備隊ニ其措置方ヲ依頼シ居レリ故ニ從來特ニ協定セシモノナキモ事實上我守備隊ハ自然寬城子ノ主体ヲ成セリ(以下省略)

九〇六 七月二十八日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件發生原因其他ニ関シ回電ノ件

第一〇五号

貴電第五二号ニ関シ

(一)本件發生ノ動機ハ滿鉄駅夫ノ衝突以上他ニ原因ナキモノト認メラル尤モ赤塚外事部長浜面參謀長連名ニテ林長官及立花軍司令官ニ宛タル電報第二号中ノ第四項ノ如キ疑ヲ起セルモノアルモ今日迄ノ処未タ確ナル証拠ヲ挙クルニ至ラズ又駅夫ノ被害ハ其曲支那兵ニアリト認ム

(二)予テ彼等ノ間ニ頻繁ニ往来セル等ノ關係ヨリ見ルモ彼我ノ態度及応接振ニ付左程穩カナラザリシ模様之ナシ當時交

涉ノ現場ニ在リシ松岡大尉ノ云フ処ニ依レハ彼我ノ応接振相当慇懃ナリシ趣ナリ尚銃火ヲ交フルニ至リシ願末特ニ何レガ果シテ前ニ手ヲ下シタルヤノ点ニ付テハ七月二十日附發第九二号拙信御参照アリタシ

(三) 守備隊ハ邦人被害ノ凶報ニ接シ之ガ救護ノ為メ看護卒等ヲ派シ一方事件ノ真相取調ノ為メ支那軍隊ニ赴キ傍ラ電話ヲ以テ当館ニ邦人被害ノ事実ヲ報告シ来レリ當時恰モ前日警察官カ支那兵ノ暴行ヲ受ケ負傷セシ件ニ付陶道尹ト交渉中ナリシ故一同打合ノ上(前記九二号拙信ニ高峻峰モ同席セシ旨記載セシモ誤リニシテ其時電話ニテ呼寄セシナリ)孟團長ヲ急行セシムル事トシ夫レ迄取調ヲ見合セラレタシト守備隊ニ電話シ尚直チニ当館ヨリ神田警部ニ警部補一名巡查五名ヲ引率現場ニ急行ヲ命シタリ守備隊ハ伝令ヲ以テ右ノ次第ヲ住田中尉一行ニ送達セリ尚赤塚外事部長浜面參謀長筈林長官立花軍司令官宛電報第二第三項記載ノ通り當時松ノ屋附近迄同時ニ兵員十名ヲ派遣シ置キタル事情及交渉中支那兵ノ逃亡見張トシテ一名ヲ派遣シタル事実ハ恐ラク支那兵ノ誤解ヲ招ク因トナリタルカト思料セラル我軍隊及支那軍隊何レニ於テモ張作霖カ吉林側ニ対スル我

テ然ラハ此際真相ノ宣伝ト共ニ他方迅速ナル交渉ニヨリテ事件ノ解決ヲ求ムルノ策ニ出テサル可ラス然ラサレハ第二ノ鄭家屯事件ヲ誘起スル虞アリ而テ我要求事項中ニハ左ノ意味ノ一項ヲ附加スル事必要ナリト信ス

今回ノ事件ハ其直接原因ノ如何ニ拘ラス現時ノ排日運動ノ結果支那人一般ニ対シテ日本人感情上不良ノ影響ヲ与ヘタルニ因由スル所寡カラス依テ速ニ排日運動者ヲ嚴重且ツ効果アル方法ヲ以テ取締ル事ヲ要求ス

九〇八 七月二十九日 長春市民会ヨリ 内田外務大臣宛

寬城子事件ニ鑑ミ長春地方ノ治安保持方ニ関シ 請願ノ件

大正八年七月二十九日 (八月四日接受) 長春市民会 (印)

外務大臣 内田康哉殿 謹啓七月十九日寬城子ニ於ケル支那兵ノ暴行ニヨリ我忠勇ナル将卒數十名ノ死傷ヲ出シタルハ甞ニ帝國ノ威信ヲ傷ケタル耳ナラス将来滿蒙開發上一般ノ不安ヲ感セシムル事著

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九〇八

反感ヲ煽ル為メ我ニ向テ殊更ニ事ヲ構ヘタルモノニ非ザルカトノ疑ヲ有シ居ル向キアルモ未タ的確ナル証拠ヲ握ルニ至ラズ

北京奉天閩東都督ニ電報セリ

九〇七 七月二十八日 南天津軍司令官ヨリ 福田參謀次長宛(電報)

寬城子事件ニ関連シ中国ノ排日運動取締ノ必

要ニ付回電ノ件

天電第一四六号

寬城子事件ニ関シ電報第二十四号ヲ以テ御指示ノ趣了承當軍ニ於テハ事件發生ノ当初ヨリ時局柄排日熱ノ高潮ヲ顧慮シ著々真相ノ宣伝ニ努メツツアリ而テ本職ハ斯ノ如ク事件頻發ニ從ヒ益々大規模ナル支那新聞操縱ノ切要ナル事ヲ確信ス唯現時稍其時機ヲ失ヒタルノ憾アリ 尚寬城子事件ハ其曲支那兵ニ在ル事ハ当地英字及ヒ支那新聞共ニ認ムルモ之ヲ排日煽動ニ利用セントスルハ事実ナリ從テ単ニ事件ノ真相ヲ宣伝スルノミニテハ何等效果無キカ如シ蓋シ我宣伝ニ対シ學生團ノ反對的宣伝アリテ其效果ハ日本側ノ宣伝ヨリモ有効ナルモノアリト信スレハナリ果シ

シキモノ有之候ニ付テハ七月二十一日長春在住同胞ハ市民大会ヲ開キ左記事項ノ実行ヲ当局ニ建議スル事ヲ決議致候希クハ我等意志ノ存スル処ヲ參酌セラレ速カニ適當ノ御処置ニ出デラレン事ヲ偏ニ奉申請候

記

- 一、自今長春鐵道附屬地ヲ中心トシテ式十哩以内ノ地域ニ支那兵ヲ常駐セシメサル様支那政府ニ交渉アリタキ事
- 二、將來長春ノ絕對安全ヲ期スルニ足ル有力ナル日本軍隊ヲ永久ニ駐屯セシメラレタキ事

以上

尚同日市民会ハ前記式項ノ外日支交渉ニ対スル希望条件トシテ左記各項ノ諸件ヲ提出シテ御參考ニ供シ度決議致候ニ付右御了承ノ上何卒當会ノ希望貫徹致候様御尽力被成下度併テ奉懇願候

記

- 一、東三省ニ於ケル文武官ノ任免ハ予メ日本ノ同意ヲ得ル事
- 二、東清鐵道沿線守備ノ支那兵ヲ全部撤退セシメ日本兵ヲ以テ之ニ代ラシムル事

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九〇九 九一〇

九九四

三、吉長鉄道沿線ノ鐵路巡警ヲ全廢シ日本人ヲ以テ之ニ當ツル事

四、吉林ニ日本軍隊ヲ常駐セシムル事

五、東三省ニ於ケル日本人ノ居住スル地域ニ日本人ヲ保護スルニ足ルヘキ日本警察官ヲ配置スル事

六、七月十九日寬城子ニ於テ殘虐ヲ逞ウセシ支那兵士及其指揮者ヲ極刑ニ処シ之ヲ執行ニ際シ必ス日本官憲ヲシテ立會セシムル事

七、由来支那人間ニハ日本人ヲ殺傷スルモ相当賠償金ヲ支払ヘハ無事ニ問題ヲ解決シ得ヘシトノ一般的信念アリ故此際斯ノ如キ輕侮的態度ヲ一掃スル為賠償金問題ハ可成交渉条件トシテ提出セザル事

九〇九 八月三日

林閣東厅长官ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国軍隊及軍需品ノ輸送禁止解除ニ付通報ノ件

秘第一五三号

時局ニ際シ特ニ承認スルモノノ外一切支那軍隊及軍需品輸送方禁シ置キタル処最早奉吉兩軍ノ情勢漸ク緩和シ戰鬪ノ

通ヲ欠キ居タル支那兵ノ感情ヲ著シク刺戟セシメタルモノアルヘキハ想像ニ難カラザル所ニシテ之カ為不必要ニ事態ヲ重大ナラシムルニ至リタルノ嫌ナキニアラズ現ニ陸軍側ノ報告ニ於テモ我軍隊側ノ動作カ直接衝突ノ因ヲナセルモノアルコトヲ確認シ居レリ此辺ノ事情ハ对支政策ノ公正ヲ旨トスル帝國政府ニ於テ本件解決ニ関シ篤ト考量ヲ加フルヲ要スル所ニ有之就テハ本件ノ解決ニ関シ一面帝國ノ威信ト我軍隊ノ面目ヲ保持シ且ツ将来事件ノ頻発ヲ防止シ他面帝國ノ態度ノ公正穩健ニシテ猥リニ隙ニ乘シテ圧迫ヲ事トスルモノニアラザルコトヲ示スタメニ大体左記条件ニ拠リ本件解決ヲ計ルヲ以テ妥當ナリト思考ス

一、支那政府ヨリ寬城子事件ニ関シ七月二十二日公布セラレタル大總統令ノ全文ヲ公文ヲ以テ在支帝國公使ニ通報シ併セテ本件ノ發生ニ對シ帝國政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表スルコト

二、大總統令ノ命令ニ基キ張巡閱使及鮑督軍ニ於テ迅速當該責任者ノ查弁ヲ了シ張巡閱使ヨリ遲滞ナク其結果ヲ在奉天帝國總領事ニ通報スルコト

三、暴行ノ際當該支那兵ヲ直接指揮シタル將校並ニ暴行加

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九一〇

懸念渺キ狀況ニ至レルヲ以テ右本日解禁従前ノ通取計差支ナキ旨夫々訓示セリ

九一〇 八月十五日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使及在奉天赤塚總領事宛  
(電報)

寬城子事件ノ解決条件及交渉手續ニ関シ訓令

並右ニ付意見提示方要請ノ件

第一〇五九号(小幡公使宛)

第一二四号(赤塚總領事宛)

過般長春ニ於テ發生シタル日支兵衝突事件ノ真相精査ノ結果ニ依レハ大体ニ於テ其曲支那側ニアルコト疑ナキ所ナルモ本件ノ全体ヲ通シテ冷靜ニ之ヲ觀察スルニ我方ノ執リタル措置ニ関シ必スシモ遺憾ノ点ナシトセズ例ヘハ滿鉄駅夫カ支那兵ノ為ニ毆打セラレタルニ過キザル單純ナル邦人被害事件ニ関シ我軍隊側ニ於テ応急処置ノ範圍ヲ越エテ強テ團長ニ面会ヲ求メ直接交渉ヲ試ミタルノミナラズ自ら加害者ヲ物色セントシ又ハ支那將卒ヲ監視スルカノ如キ態度ヲ示シ又別ニ数十名ノ武装兵ヲ支那側幕營附近ニ出動セシメタルカ如キコトアリテ是等ノ事實ガ平素ヨリ兎角意思ノ疏

担ノ下士卒及凌虐ヲ行ヒタル者ヲ嚴重処罰スルコト

四、軍隊ノ暴行ニ加ハリタル巡警兵ノ有無ヲ查明シ事実ナルトキハ之ヲ処罰シ其直屬指揮者ヲ処分スルコト

五、東三省ニ於ケル支那軍隊ノ規律ヲ嚴ニシ以テ将来日本官民及軍隊ニ暴行ヲ加フルモノナカラシムル為メ支那當該官憲ニ於テ最モ有効ナル方法ヲ執ルヘキコトヲ保障スルコト

六、南滿洲鉄道株式会社長春駅々夫ノ被害事件ニ関シテハ在長春帝國領事ト支那当局トノ間ニ別ニ協議ヲ行フコト以上六箇条件中

(一)ノ大總統令ノ件ハ支那政府自ら本件發生ノ不都合ヲ認め自發的且ツ敏速ニ當該責任者ノ処分ヲ行ヒタルモノナルヲ以テ我方ニ於テモ其態度ヲ諒トスルヲ要スヘク此際之ヲ正式ニ我方ニ通報シテ遺憾ノ意ヲ表セシムルヲ以テ満足シ此上追及スルヲ避ケントスルモノナリ

(二)大總統令ノ命シタル查弁ノ結果ヲ我方ニ通報セシムルハ第一条件ニ伴フ当然ノ要求ナリ

(三)大總統令ノ查弁ヲ命シタル範圍ハ師長、團長、營長等ニ止ルモノト解セラルルヲ以テ直接暴行ニ関与セル將校及下

九九五

士卒ノ処罰ヲ別ニ要求スルハ当然ナリ（陸軍側ノ報告ニ依  
レハ將校ノ暴行ヲ指揮シタルモノアル模様ナリ）

（四）巡警兵ニシテ暴行ニ加ハリタルモノアリトハ陸軍側ノ報  
告ニアル所ナルカ支那側ノ報告ニ於テハ之ヲ否認スルカ如  
キ一節アリ依テ此点ハ更ニ查明ノ余地ヲ与フルヲ妥当トス  
但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此点ヲ引離シテ別問題トナ  
シ本件ノ実体タル軍隊暴行問題ノ急速解決ヲ計ルコト得策  
タルコト勿論ナリ

（四）軍隊ノ規律ニ関シテハ既ニ大總統令ニ於テモ言及スル所  
アルモ右ハ主トシテ吉林省ニ関シテ孟恩遠ニ対スル命令タ  
ルニ止マルヲ以テ別ニ一般的ニ本項ノ保障ヲ要求スルノ必  
要ナルヲ認ム

（六）馱夫ノ被害事件ハ本件ノ実体タル軍隊衝突ノ問題ト引離  
シ別個ノ問題トシテ取扱フコト事ノ性質上当然且ツ得策ナ  
ルヘシ尤モ右被害事件カ本件ノ原因タリシ事實及之カ解決  
ハ別ニ協定ヲ必要トスルノ主義丈ケハ本件解決ニ關聯シテ  
支那側ヲシテ予メ之ヲ承認セシメ置クヲ必要トス

尚以上六箇条件ノ外（イ）將來支那軍隊ノ駐屯地点ヲ限定セシ  
ムルコト（ロ）支那当局ヲシテ直接我軍軍事当局ニ対シ陳謝セシ  
ヘントスル次第ナリ

次ニ交渉手続ニ関シテハ条件第一項ハ在支公使ヲシテ支那  
中央政府ニ対シ交渉セシメ同第二乃至第六項ハ条件ノ内容  
ニ顧ミ在奉天總領事ヲシテ張巡閱使ニ交渉セシムルヲ適當  
ト思考スルモ張巡閱使トノ間ニ交渉ヲ行フコトハ自然張ノ  
東三省全部ニ亘ル巡閱使タル地位権限ヲ広汎ニ承認スルノ  
結果トナルヘキ虞アリ就テハ右ノ如キ承認ノ結果ヲ齎スコ  
トナク特ニ本件ノ関スル限り張ト交渉ヲ行フコトヲ得ヘキ  
ヤ否ヤ並ニ其可否如何或ハ寧口在吉林總領事ヲシテ鮑督軍  
ト交渉セシムルノ適否如何ニ付テ考量ヲ加フルヲ要スヘシ  
以上ノ次第ナルニ付テハ前記要求条件並ニ交渉手続ヲ如何  
ニスヘキヤ其他御氣付ノ点ニ関シ貴見承知致度本件交渉ノ  
開始ハ出来得ル限り迅速ナルヲ要シ現ニ暴行支那軍隊ノ一  
部ハ既ニ解散セラレ暴行兵ハ逃亡セルモノアリトノ報モ有  
之趣ニ付右大至急御回電相成タシ

奉天、吉林、長春及林閣東長官へ電報セリ

ムルコト及（イ）賠償金ヲ支払ハシムルコト等ノ条件ニ付テモ  
考量ヲ加ヘタル処（イ）ニ関シテハ支那領土内ニ於ケル支那軍  
隊ノ配置ニ干渉制限ヲ加フルハ主權侵害ノ譏ヲ招クノ患ア  
ルノミナラズ元來寬城子駐屯ノ我軍隊ハ條約上守備隊タル  
資格ヲ有セザルモノノ如ク從テ東支鐵道南部線守備ノ責任  
ヲ有スル支那軍隊側ヨリ却テ兵站事務ニ要スル兵員以外ノ  
我軍隊ノ撤退ヲ要求スルノ機会ヲ与フルニ至ルヤモ計リ難  
シ將又彼我當局間ニ協定セラレタル暫行治安維持弁法モ早  
晩之ヲ解除スヘキコト既ニ彼我ノ間ニ諒解アルニ拘ラズ永  
久的ニ本条件ヲ要求スルハ我態度ノ矛盾ヲ示スノ嫌アリ（ロ）  
ニ関シテハ既ニ帝國ノ代表者タル在支公使ニ対シ支那中央  
政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スル以上別ニ部分的ニ軍憲ニ対シ  
同様ノ条件ヲ要求スルノ必要ヲ認メズ却テ之カ為メ彼我軍  
隊間等ニ感情疎隔ノ因ヲ胎スコトナシトセズ（ハ）ニ関シテハ  
普通人ノ被害事件ニアリテハ賠償金又ハ慰籍金ヲ要求スル  
コト普通ノ先例ナルモ懲戒ノ賠償ヲ要求スルカ如キハ普  
通人ノ場合ト雖モ甚タ惡例タルヲ免レズ殊ニ軍隊間ノ戰鬪  
的行為ニ因ル損害ニ付金錢の賠償ヲ求ムルハ面目上面白カ  
ラザルモノアリ事ノ是非曲直ヲ糺シ支那政府ノ陳謝ヲ求メ

（奉天へハ）

右本大臣訓令トシテ吉林、長春及關東長官へ電報アリタシ

九二一 八月十八日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

寬城子事件ノ解決条件及交渉手続ニ関シ意見

呈示ノ件

第一三六号 至急

在奉天總領事宛電第一二四号ニ関シ本官ニ対シテモ意見  
開陳方御訓令アリタルモノト解シ卑見左ノ通

（一）条件第二及第三ニ付テハ高級幹部既ニ職ヲ去リテ四散  
シ又當時支那軍隊ノ大部ハ直ニ遁走且暫定治安維持法ノ結  
果都テ遠隔ノ地ニ退去セシメラレ其後支那側ニ於テ調査ノ  
余地ナキヤニ見受ケラルルニ付事實不可能ナルヤノ虞アリ  
動機ノ如何ニ拘ラス集團トシテ全員都テ攻撃ヲ敢テシ曲全  
然彼ニアル以上各個ノ処罰ヨリモ寧口当該部隊全般のノ謝  
罪又ハ戒飭ニ重キヲ置ク方如何ニヤ

東清線警備支那軍隊ノ不節制放恣ナルハ屢々之ヲ聞ク所ニ  
シテ多ク露國兵力ノ空虚ニ対スル得意ト我守備隊員ノ少数  
ニ基ク輕侮ニ基因スルモノノ如キ処右ノ案ニ依リ地方的ニ

多少之ヲ矯正スルヲ得ヘシ

(二) 条件第五ニ関シ此種事件ノ再発ヲ防止スルノ誠意ニ訴ヘ「イ」支那政府ヲシテ自発的ニ今後内争ニ際シ軍規教練ナク地方民ニ危険ヲ感セシムル程度ノ徒輩ヲ招募スルコトナカラシムベキ旨及「ロ」長春ノ如キ交通ノ衝ニ当ル箇処ノ附屬地周囲若干里内ノ地帯ヲ支那軍隊通過ノ節ハ予メ其兵数指揮官名先行先等必要ノ事項ヲ最寄ノ日本官憲ニ通知スベキコトヲ声明セシメ我方ニ於テモ之ニ相当ノ便宜ヲ与フルコト等如何ニヤ

従来此種問題ヲ惹起スルハ常ニ支那軍隊又ハ巡警ノ暴状ニ依ル処軍規ヲ嚴ニスト云フモ事ニ臨ンデ兵ヲ新募スル限り万一ノ事端發生ニ防止ノ途ナカルベク果シテ然ラハ之ヲ軍隊トシテ待遇セサルヲ得サル我官民ニ於テ常ニ不安ヲ感セサルヲ得ス東支線ニ於ケル列車ヘノ発砲当地ニ於ケル馬車ノ徵発等一般外国人ニ対シ少ナカラサル危険ヲ及ボシタル訳ナルニ付一般利益ノ為將又我附屬地官民ヲシテ万一ノ危険ヲ避ケ得ルニ足ル余裕ヲ与ヘシメンカ為暫定章程ノ効果ニ鑑ミ是ヲ必要ト認ム

(三) 条件第六ニ関シ駅夫被害事件ノ如キハ単ニ私ノ行違ニ涉シタルコトナシ猶暴行ノ背後ニ潜メル動機ヲ除ク他ノ点ニ就テハ道尹ヲ(脱)得ベキ見込アリ(四)仮令証拠ナシト雖モ既ニ当時責任ノ局ニ当リシ吉林側ニ於テ何等カ外部ヨリノ使喚アリタルヲ云為スル以上本件ノ交渉ニ際シテハ張巡閱使ノ権限ニ関スル問題ト共ニ此ノ点ヲモ考査スル備アリト思考ス  
尚当地地方在留民ノ希望トシテ此ノ際吉林線ノ性質及居留民ノ立場ニ鑑ミ吉林ニ小部隊ノ駐屯ヲ承諾セシムルノ必要ヲ説ク者アリ為念  
在支公使ヘ転電シ関東長官、在奉天総領事、在吉林総領事代理ヘ通報セリ

九一二 八月十八日 林関東庁長官ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ノ解決条件及交渉手續ニ関シ意見  
開陳ノ件

秘第一七三号

(八月十九日接受)

長春日支兵衝突事件解決ニ関スル御電示恰モ赤塚総領事当地ヘ参リ居リタルニ付其ノ意見ヲモ徴シタルニ本官ニ於テモ赤塚総領事ニ於テモ御電示通りニテ至極御同意ニ有之而

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九一二 九一三

止マリ寧口是ヨリ以前支那軍隊ノ不節制ニ基キ發生セル我警官ノ殴打等ノ問題アリ依ツテ別箇ニ併セ交渉シ例ヘハ警官殴打ニ就テハ道尹ノ公式謝罪駅夫ニ付テハ陳謝ト治療費支払等ノ条件ニテ折合フコト如何ニヤ

(四) 巡警発砲ハ支那側ニテ否認セル訳ニアラズ認めザルノミ但シ既報ノ通り事実明白ト認めラルルノミナラズ少クモ治安維持ノ局ニアル將官二十名ガ何等交戦停止ニ資スベキ手段ヲ尽サザリシ点ノミニテモ責任アリト言ヒ得ヘキニ付此ノ際吉林省政府ヨリ一律嚴重戒諭方然ル可シ

(五) 賠償不要求ハ誠ニ至当ト存ゼラルル処当地地方ニテハ一般ニ日本人ヲ殺傷スルモ相当賠償金ヲ払ハバ容易ニ事ヲ落着セシメ得ベシト信ズルモノ従来多キ由ニ聞及ベルニ付テハ右要求ヲナサザルニ際シテハ能ク其ノ真意ヲ徹底セシムルコト必要ナランカ

(六) 本件交渉ニ際シテハ(イ)先ツ事件ノ経過ニ就キ支那側ヲシテ我方ト一致セシムル必要アルベク而シテ当地道尹ハ現場ニ臨ミ曲ノ彼ニアルヲ自覺セシ情勢アルニ付先ツ当地ニテ正式ニ右事実ヲ認知セシメタル上条件提出最モ可然ト存ゼラル(未ダ事実ノ経過ニ付当館ニ於テ正式ニ支那側ト交

シテ其ノ地方的ニ解決スル分ハ吉林鮑督軍ニ対シ交渉スル方可然存ゼラル尤モ交渉問題トハ直接関係ナキモ張巡閱使ノ地位ヲ認ムルコトハ已ニ確定セルモノトシテ御認めアルコト可然ノミナラズ吉林黑竜兩督軍トモ重大ノ事件ハ皆張ト打合ノ上決行スベク存ゼラルルニ付我方方ニ取リテハ寧口張ノ地位ヲ利用スル方利益ナルベク存ゼラル今回ノ交渉ニ関シテモ之ヲ開始スルト同時ニ赤塚総領事ヲシテ其ノ内容ヲ一切張ニ示サシムル方却テ交渉ヲ容易ナラシムベク存ゼラル  
右北京、吉林、長春ヘ転電セリ

九一三 八月十九日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国側ヨリ暫定治安維持法撤廃方申出ニ付請  
訓ノ件

第一四〇号

(八月二十日接受)

十八日日本官他用ヲ以テ交渉員ヲ往訪シタル際暫定治安法施行ノ結果往々ニシテ日本ニ対シ面白カラザル感情ヲ奉天及黑竜江軍ニ抱カシムルノ虞有ル処督軍問題終止地方安静トナレルニ付之ガ廢撤如何ト申出有リ小官ヨリ右ハ直チニ上

九九九

局ニ稟請ノ上何分ノ儀申進ズベク実ハ貴國兵ガ發砲ニ加ヘテ虐殺ヲ敢テシタル事実ハ痛ク我軍民ノ憤激ヲ買ヒタル訳ナル処今日尚該治安法ヲ無視セラルル事実有ル限未ダ廢撤ノ期ニ非スト認メ居タル次第ナリトテ兩三日來城内ニ吉林兵約二千孟家屯我分遣隊ノ眼前ニ誠明ノ部下一大隊無斷ニテ駐屯小官ヨリ注意アリタル後移転ノ措置ニ出デタル例ヲ引用シ我立場ヲ説明シタルニ同人ハ今後相当ノ期間附屬地外一定里數ヲ大部隊ノ通行駐屯スル時ハ之ヲ日本領事ニ通知スベキ旨新ニ取極ムルト共ニ(コハ鮑督軍ノ意ニ出ヅルガ如シ)現章程ノ廢撤ヲ願ヒ度キ旨ヲ述ベタリ当地現狀ハ往電第一二二号所報ノ時ト異リ今ヤ危險ナシト認メラルルニ就テハ機ヲ見テ(一)全然廢撤スベキカ又ハ(二)附屬地周圍ニ関シ小官等ノ適當ト認ムル留保の取極ヲ新ニ作成シテ廢撤セシムベキヤ何分ノ儀至急御電訓ヲ請フ

在支公使関東厅长官ヘ電報セリ

奉天吉林ヘ郵報セリ

九一四 八月二十日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件解決案ニ関スル訓令ニ付意見開陳

中央政府ヨリ公正妥當ナル右条項ニ基キ至急解決ヲ計ルベキ様當該地方官憲ニ対シ電訓取計方説示スルコト適當ト思考ス

(一)地方交渉地点ニ関シテハ既ニ大統領令ニ依リ本件ノ查弁ヲ張巡閱使及鮑督軍ニ命シタル行懸モ有ルニ付奉天總領事ヲシテ張巡閱使トノ間ニ交渉セシムルモ必ズシモ張ノ東三省全体ニ亘ル巡閱使タル地位權限ヲ公然ニ承認シタルノ結果トナルヘキモノトハ認メ難キモ本件ハ吉林省省内ニ於テ惹起シタル問題ニ付地方交渉タル以上寧ろ本件ニ直接ノ關係者且責任者タル鮑督軍ニ対シ吉林總領事ヲシテ交渉セシムルコト適當ナランカト思考セラルルモ此ノ点ハ奉天吉林兩總領事及関東長官ノ意見ヲモ斟酌セラレ御決定相成度シ尚交渉地点若シ吉林ニ決定セハ本件条項ノ第二項後段ハ鮑督軍ヨリ遲滞ナク其ノ結果ヲハ吉林帝國總領事ニ通告スルコトト改ムルノ要アルヘク又第五項ヲ広く東三省全部ノ軍隊ノ問題トスルコト聊カ不穩當ノ様存セラル

四今回ノ本件解決条項ハ我方トシテハ頗ル寬大ナル解決案ナルニ付今後同様事件發生ノ場合ニ支那側ニ於テハ本件

ノ件

第一一七〇号(至急)

(八月二十一日接受)

貴電第一〇五九号ハ八月十五日夕發電ナルモ漸ク十九日夕接到セル次第第二テ左記回答遅延ノ段御了承ヲ請フ

(一)本件解決条件六箇条ハ大体公正妥當ト思考セラルルニ付削除又ハ加入スベキ条項ナシ尤モ支那側ノ常習トシテ我が提案ヲ其ノ儘直ニ応諾スルヤ否ヤ頗ル疑ハシク本使及關係領事ニ於テ全力ヲ尽スベキハ勿論ナルモ尚多少懸引上ノ余裕ヲ存スル様ノ条項ヲ設クルノ要ナキカト存ズ御来示ノ条項ハ吾ニ於テ当然求ムベキ最小限ト存ゼラルルニ付若シ右ノ条項ヲ設ケザルナラバ御来示ノ条項ハ一歩モ譲ラザルノ覚悟必要ニシテ而カモ之實際上頗ル困難トセラルル場合ヲ生ズルニ至ルナキカヲ虞ル一応御考慮請ヒ度シ

(二)交渉手續ニ関シ条件第一項ハ本使ヨリ支那中央政府ニ対シ交渉致スベキモ右交渉ノ方法及時機ト地方交渉ノ地点及時機ノ決定セル頃ヲ見計ヒ本使ヨリ中央政府ニ対シ解決条項ノ六項全部ヲ提示シ第一項ハ中央ニ於テ交渉シ第二項乃至第六項ハ地方ニ於テ交渉スルコトトシ度キニ付

解決案ヲ前例トスルノ虞ナキニ非ザルヲ以テ必ズシモ条項中ニ記入ノ要ナキモ解決案条項ノ前後可然個処ニ本件解決条項ヲ以テ先例トナスコトヲ得ズトノ意味ヲ書加ヘ置クコトノ必要ナキニ非サヤト思考ス

卑見ノ大要右ノ通ニ付御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ奉天ヘ転電シ関東長官、吉林、長春ヘ転電セシメタリ

九一五 八月二十一日 在吉林森田總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件解決案ニ付意見稟申ノ件

第九四号

奉天總領事宛貴電第一二四号ニ関シ

(一)及(三)ハ在長春領事發閣下宛電報第一三六号ノ通關係部隊ノ幹部全部ハ既ニ免職又ハ逃走シ殘部ノ兵卒モ大部分逃亡シ殘留隊少數ナルニ付提出条件ハ比較的効力薄キモノト認メラル依テ南京事件ノ先例モアル事ニ付該隊全部ヲシテ謝罪セシメ併セテ直接指揮シタル將校ヲ処罰セシムル事必要ナルベク支那側ニ誠意アレバ之ヲ探シ出ス事ハ左程困難ナラザルベシト思考ス

四巡警ノ加入シ居ル事ニ就テハ吉長道尹ハ之ヲ認メ居ラザ

ルモ巡警使用ノ銃器ハ軍隊ノモノトハ異ナリ明カナル証拠  
アル以上指揮者ト共ニ之ヲ処分スル事ハ至当ト認ム

(内)ハ長春領事ト同意見ナリ

尚右ノ外支那ノ主権行動ニ掣肘ヲ加フルノ嫌アルモ長春新  
嶺ニ駐屯スル支那兵交代ノ場合ハ予メ長春領事ニ打合フナ  
ス事但本条件ハ之ヲ声明セザル事トスル事ノ一条件ヲ加ヘ  
ラレテハ如何カト思考ス

従来長春在留民ハ新嶺ニ支那軍隊在ル為常ニ威嚇サレ居ル  
ヤノ感アリテ附屬地外居住ノ邦人ハ常ニ不安ノ念ニ驅ラレ  
居レリ從テ現在駐屯隊ハ吉林軍中稍々規律アル隊ナレドモ  
無規律不節制ヲ常トスルハ支那軍隊ノ常態ニシテ其ノ中ニ  
於テモ最モ獍猛ナル馬賊上リノ兵ヲ常ニ駐屯セシメラルル  
事アラバ長春在留民ハ到底其ノ堵ニ安ンズルヲ得ザルベシ  
或ハ吉林モ同様ナルニ非ズヤトノ御疑アランモ吉林ハ督軍  
駐在地ナレバ仮令馬賊上リノ兵在ルモ秩序ハ維持シ得ル見  
込アリ右御参考迄ニ

北京へ転電セリ

九一六 八月二十三日

内田外務大臣ヨリ  
在長春村上領事宛(電報)

貴電第六七号ニ関シ

一、当地方ノ現状ヲ見道尹鎮守使、孫鮑兩督軍ノ態度及証  
言ニ鑑ミルモ今後寬城子問題解決迄彼我兩國兵間ニ衝突  
ノ危険アリトハ認メラレズ(他面暫定章程ノ存スル限り  
却テ彼ヲ刺戟シ我ニ於テモ之ガ励行ニ努メザルベカラザ  
ル結果万一ノ事端ヲ生スル虞ナキニアラザルベシ)  
二、但シ彼ヲシテ暫定章程ノ廢撤ガ一ニ我友好ノ念慮ニ出  
ヅル所以ヲ了得セシメ之ヲ寬城子問題ノ解決ニ利用セザ  
ル我誠意ヲ切実ニ周知セシメザル限り当地ノ如ク各種軍  
隊ノ往来頻繁ナル処ニテハ未タ安全ト云ヒ難カルベシ  
(現ニ往電第一四〇号中段所載ノ事例ノ外二十四日大屯  
駅ニ於テ三十名ノ武装支那兵我守備隊ノ正当ナル抑止ニ  
拘ラズ重ホテ附屬地ニ入込ミタルニ付嚴重交渉中ナル事  
実モアリ)

三、從テ留保の取極必要アリト認メラルル処小官等ノ適當  
ト認ムル内容左ノ通

(a)今後長春及其附近少クトモ附屬地周圍三十支里内ヲ支那  
軍隊通行又ハ駐屯ノ時ハ予メ總兵數及地点ヲ當館ニ通報ス  
ルコト

暫定治安維持法撤廢差支無キ旨回訓並留保取  
極ニ付問合ノ件

第六七号

貴電第一四〇号ニ関シ果シテ貴官ニ於テ今後危険ノ虞ナシ  
ト認メラルルニ於テハ交渉員申出通りノ新ナル取極ヲナス  
ト共ニ暫行治安維持法撤廢差支ナシ尤モ貴電末段附屬地周  
圍ニ関スル貴官等ノ適當ト認ムル留保の取極トハ如何ナル  
条件ヲ含ムヘキモノナルヤ又貴官ニ於テハ貴地方ノ情態ニ  
顧ミ此際尚何等留保の取極ノ必要ヲ認メ居ラルル儀ナルヤ  
当方ニ於テハ支那側自發的ノ提議ニ依ルモノノ外此際不必  
要ナル制限ヲ支那側ニ強ウルコトハ之ヲ避ケ度キ意嚮ナル  
ニ付御合ノ上右留保の取極ノ要求ニ関シ貴見御回電アリタ  
シ

右在支公使、関東長官へ転電、奉天、吉林へ郵報アリタシ

九一七 八月二十八日

在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

暫定治安維持法撤廢ニ付留保の取極ニ付意

見開陳並請訓ノ件

第一四四号

(八月三十一日接受)

(b)附屬地内ヲ武装セル支那人ノ各個又ハ武装ヲ為シテ通  
行セントスルトキハ當館又ハ最寄派出所ニ申出其認諾ヲ經  
ベキコト

四、新取極ノ形式ハ先ツ交渉員ヲシテ公文ヲ以テ右ノ申出  
ヲ為サシメ我ヨリ之ヲ「アクノレシ」シタル上現章程ノ  
廢撤ニ同意ノ旨ヲ詳述セル公文ヲ送ルニ止メ然ルベシト  
存セラル

五、彼ヲシテ衷心ヨリ自白的ノ申出ヲ為サシムルコトハ(a)  
ニ付テハ望ンデ得ヘカラズ少クトモ我方ヨリ其必要ヲ主  
張セザル限り鮑督軍ニ於テ之ヲ承引セザルベシ仍テ前記  
方法ニ依リ自發ノ形式ヲ備ヘシムル外ナシ

尚右ノ内(b)ハ從來ノ慣行ニシテ更メテ取極ヲ待タザル義ナ  
ルガ曩ニ共同出兵以來實際上ノ取扱非常ニ「ルーズ」トナ  
リ保安上不都合尠カラザルニ付現章程第六條ニ鑑ミ此機ニ  
於テ明瞭ニシ置カントスルニ過キズ(從テ之ヲ(a)ト引離シ  
別個ニ「コンファーム」スルモ一法ナルガ繁雜ノ嫌アリ)  
將又同第一条ニ付テハ「我方ニ於テ何等巡警ガ発砲セザリ  
シヲ事実ト認ムル訳ニアラズ全ク虎列拉蔓延ニ際スル衛生  
警察ノ切要ヲ察シ之ガ復員ヲ承引スル」モノナル所以ヲ更

メテ先方ニ通シ置クヲ必要トスベシ  
右諸点ニ関シ速ニ御回訓ヲ請フ

尚本件ニ付テハ我守備隊長モ同意見ニシテ陶交渉員モ忠諾ノ意ヲ洩セリ尤モ督軍ニ請訓中

在支公使閔東長官ニ電報シ奉天吉林各領事へ郵報セリ

九一八 九月一日 内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使宛(電報)

既電ノ寬城子事件解決条件ニ別電ノ増補ヲ加

ヘタルモノヲ我要求原案トシテ中国政府ニ提

出方訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣宛在中國小幡公使宛電報第一一

一四号 既電ノ解決条件ニ加ヘタル増補事項

第一一三三号

往電第一〇五九号ニ関シ貴電第一一七〇号前段實見ヲモ考量ニ加ヘ前記往電解決条件六ヶ条ハ我方要求ノ最少限トシテ其上ニ多少伸縮ノ余地ヲ存セムカ為メ之ヲ別電第一一四号ノ通り増補シタルモノヲ我要求原案トシテ支那政府ニ提出スルコトニ決定セルニヨリ右ニ基キ交渉セラレタシ尚交渉ノ地点及手續其他ニ関シ貴官及關係各領事ニ於テ特ニ

長春兩領事ニ移牒シ兩領事ニ於テハ臨機必要ノ措置ヲ講シ又本件交渉ノ進行ニ伴ヒ兩領事ニ於テ意見アラハ其都度奉天總領事ニ通報シ相互ニ充分ナル連絡ヲ保ツコト

(四)別電第一一四号末段支那政府ヲシテ実行セシムヘキ希望事項ノ冒頭ニ指摘セル(イ)支那軍隊ノ一部カ何等挑発ヲ受クルコトナクシテ日本ノ將卒ニ対シ突然射撃ヲ開始セルコト(ロ)日本將卒ノ屍体ニ非人道極マル殘虐凌辱ヲ加ヘタルコトノ二点ハ本件要求ノ最モ重要ナル根拠ニシテ支那側ヲシテ先ツ此ノ事實ヲ認メシムルコトハ我要求ノ極メテ公正妥当ナルコトヲ支那側及世界ヲシテ了知セシムルニ最モ必要ナルニ付詳細ノ事實ニ亘ル論議ハ可成之ヲ避ケ支那側ヲシテ右ノ二点ハ是非トモ潔ク之ヲ認メシムルノ方針ニテ折衝スルコト(屍体凌辱ノ写真ハ既ニ貴官ニ於テ接手セラレタルコトト察スルニ付貴官ハ適當ノ時機ニ之ヲ支那政府当局ニ提示セラレタシ)尚右希望条項ハ要求各条項ト等シク帝國政府ノ頗ル重ヲ措ク所ナルニ付其御含ニテ御交渉アリタシ

(四)我軍隊ノ死傷者ニ対シ賠償ヲ求ムルコトハ固ヨリ当然ノ權利ナリト雖帝國政府ハ兩國ノ睦誼ニ顧ミ之ヲ要求セサ

左ノ諸項御含置アリタシ

(イ)貴官ノ意見ニ拠レハ張巡閱使ヲ交渉相手方ト為ストモ右ハ既ニ大總統令ニ依リ本件弁弁ヲ張巡閱使及鮑督軍ニ命シタル行懸リモアルコトナレハ為ニ必スシモ張ノ巡閱使タル地位權限ヲ公然承認スルノ結果ヲ求ササルヘシトアリ又閔東長官及在奉天總領事ノ意見ニ拠レハ實際上吉黒兩督軍トモ重大事件ハ皆張ト打合セ決行スヘク思料セラルトアリ彼是參酌ノ上一ニハ解決ノ迅速ヲ期スルト一ニハ提案第二項末段及第五項要求ノ性質ニ顧ミ提案第一項ハ貴官ヨリ北京政府ニ第二項乃至第六項ハ奉天總領事ヨリ張巡閱使ニ交渉セシムルコト

(イ)貴官ヨリ北京政府へ交渉開始ノ際ニハ貴電第一一七〇号(ロ)ノ通り措置セラレ北京政府ヨリ張巡閱使ニ対シ在奉天帝國總領事ト迅速協議ヲ開始スル様電訓方ヲ求ムルコト(三)提案第三項第四項第六項ノ如キ吉林長春ノ各關係事項ニ就テモ依然張巡閱使ヲシテ全部其主義ヲ承諾セシメ各關係支那当局ヲシテ遲滞ナク実行セシムルノ手續ヲ執ラシムヘキハ勿論ナルモ交渉進行中奉天總領事ニ於テ局部的交渉ヲ利益ト認メタル事項アラハ隨時同總領事ヨリ吉林

ル旨ヲ切實ニ張巡閱使ヲシテ諒解セシメ之ニ代フルニ張巡閱使ヨリハ提案第二項ヲ実行スルト共ニ同巡閱使自發的措置トシテ凌辱ヲ受ケタル帝國軍人ノ遺族ニ對シ深甚ナル哀悼ノ意ヲ表スル旨當該遺族へ伝達アリタキコトヲ別ニ書面ヲ以テ奉天總領事へ申越サシムルコト

(六)提案第三項中「嚴重処罰」トハ凌辱ヲ加ヘタル者ハ勿論死刑ニ其他ノ暴行者ハ何レモ相當嚴重ニ処スヘシトノ意味ヲ婉曲ニ表明シタルモノナルニ付其ノ含ミテ折衝スルコト

(七)提案第五項中「最モ有効ナル方法」トハ其中ニ今回張孟兩督軍軋轢事件ニ於ケルカ如ク鉄道線路附近ニ強大ナル支那軍隊ヲ集中シ惹テ帝國臣民ノ不安ヲ惹起スルカ如キ場合ニ於テハ予メ支那官憲ヨリ帝國官憲ノ諒解ヲ經ヘキコトヲモ包含セシムル趣旨ナルニ付其含ニテ交渉スルコト

尚本件ノ迅速解決ハ兩國ノ為メ極メテ望マシキコト勿論ノ義ニ付時機ニ関シ特ニ御意見ナキ限り至急交渉ヲ開始セラレ速ニ支那側ノ応諾ヲ得ル様御尽力アリタシ  
奉天へ直接電報シ閔東長官長春吉林へハ奉天ヨリ転電セシ

メタリ

(別電)

九月一日内田外務大臣宛在中國小幡公使宛電報第一一四号

既電ノ解決条件ニ加ヘタル増補事項

第一一四号

(第一項) 往電第一〇五九号原案ノ通り

(第二項) 「大總統令」ヨリ「遲滞ナク」迄原案ノ通り以下左ノ通り改ム

「其結果ヲ在奉天帝國總領事ニ通報シテ承認ヲ求メ同時ニ張巡閱使自ラ在奉天帝國總領事館ニ到リ本件ノ發生ニ對シ親シク陳謝ノ意ヲ表スルコト」

(第三項) 「暴行ノ際」ヨリ「凌虐ヲ行ヒタル者ヲ」迄原案ノ通り以下左ノ通り改ム

「嚴重処罰シ其結果ヲ在吉林帝國總領事ニ通報シテ承認ヲ求ムルコト」

(第四項) 軍隊ノ暴行ニ加リタル巡警兵ヲ処罰シ其直屬指揮者ヲ処分スルコト

吉林省警察当局者ヨリ部下全体ニ諭告ヲ發シ今後再ヒ斯ル暴行ナカラシムル様嚴重戒飭ヲ加フルコト

ノ表彰シタル友情ハ我亦誠意ヲ以テ之ニ酬イムコトヲ期ス(終)

奉天へ直接電報シ関東長官吉林長春へハ奉天ヨリ転電セシメタリ

九一九

在中小幡公使ヨリ内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ我方ノ公正態度及解決条件

ニ付外交総長代理ニ申入レタル旨報告並事件

發表ノ方法ニ関シ先方申出ニ付請訓ノ件

第一二二五号 至急

(九月十日接受)

貴電第一一三三号ニ関シ九月八日本使外交総長代理ニ会见シ本使ヨリ本件顛末ニ付テハ兩國官憲ニ於テ取調ヘタル結果大体一致シ居リ已ニ貴國地方官ヨリ報告アリタル筈ニ付之ヲ省略スベキモ本件ハ支那軍隊ノ一部カ何等挑発ヲ受クルコトナクシテ日本ノ將卒ニ對シ突然射撃ヲ開始シ多數ノ死傷者ヲ生ジ日本將卒ノ死体ニ殘虐凌辱ヲ加ヘシ不幸ナル重大事件ナルモ帝國政府ハ特ニ兩國ノ睦誼ニ顧ミ極メテ公正妥當ナル条件ヲ以テ速ニ本件解決ヲ計ラントコトヲ欲スル次第ナル旨ヲ前提シ御電訓ノ六ヶ条ヲ提示シ第一項ハ北京

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九一九

(第五項) 「東三省ニ於ケル」ヨリ「有効ナル方法ヲ」迄原案ノ通り以下左ノ通り改ム

「講シ其具体的計劃案ヲ張巡閱使ヨリ在奉天帝國總領事ニ通報セシムルコト」

(第六項) 「南滿洲鐵道」ヨリ「支那当局トノ間ニ」迄原案ノ通り以下左ノ通り改ム

「加害者ノ処罰被害者ノ医薬手当補給等ノ件ニ就キ別ニ協議ヲ行フコト」(要求条項終)

尚別ニ支那政府自発的ノ措置トシテ実行セシムヘキ希望事項左ノ通り

支那政府ハ左記趣旨ヲ廣ク新聞紙ニ公表スルコト

本年七月十九日吉林省寬城子ニ於テ中国軍隊ノ一部ハ何等挑発ヲ受クルコトナクシテ日本將卒ニ對シ突然射撃ヲ開始シ殊ニ其將卒ノ屍体ニ加フルニ重大ナル殘虐凌辱ヲ以テセリ中国政府曩ニ報ニ接シ深ク以テ遺憾ト為ス今ヤ本件解決ノ為メ日本政府ノ提出セル要求ヲ見ルニ各項極メテ妥當ニシテ具サニ善隣ノ睦誼ヲ徵スルニ足レリ中国政府乃チ之ヲ允シ當該官憲ニ命シテ迅速措弁セシム惟フニ中日ノ国交素ヨリ敦厚ナラサルヘカラス此次日本政府

ニ於テ第二項乃至第六項ハ奉天ニ於テ交渉シ其ノ中吉林又ハ長春ニ關係アル分ハ夫々當該兩國官憲ニ於テ交渉実行シタキニ付第一項ハ当地ニ於テ至急実行(脱)第六項迄ハ參考迄ニ提示スル(脱)中央政府ヨリ出張シ鮑督軍等ニ對シ迅速解決方電訓アリタキ旨申入レ次デ被凌辱者五名ノ写真ヲ提示シテ一々凌辱状態ヲ指摘シテ其ノ説明書ヲモ写真ト共ニ交付シタル上更ニ本件ハ前述ノ通重大事件ニ拘ラズ帝國政府ハ兩國ノ睦誼ヲ重シスル公正寬大ナル条件ヲ以テ解決ヲ計ラントスルニ付支那政府自発的ノ措置トシテ貴電第一一四号末段ノ趣旨ヲ廣ク新聞紙等ニ公表スルコトトシ以テ貴國ノ誠意ヲ表示セラレタキ旨希望条項トシテ申入レ該条項ヲ交附シタル処同總長代理ハ本件解決案ノ大体ハ自分個人トシテハ頗ル公正妥當ナルモノト考ヘ貴國政府ガ兩國ノ睦誼ニ鑑ミ公正穩健ナル解決ヲ以テ不幸ナル本件ヲ解決セラレントスル好意ニ對シ謝意ヲ表スト述ヘ本使申入ノ次第ハ早速政府ニ報告シ明九日ノ國務會議ニ於テ相談ノ上成ルヘク至急本件解決ノ措置ヲ取計フヘシト答ヘタルガ唯支那政府自発的ニ措置ヲ執ルヘキ希望条項ニ付テハ御承知ノ通各党派等ノ關係アリ政府ノ措置ニ對シテハ事ノ是非

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九二〇

ヲ論セズ何事ニモ反対スルノ嫌アルニ付政府ノ名義ニテ発表セバ種々ナル反対批評ヲ加ヘラルルノ虞アリ却テ其ノ効果之ナカルヘキニ付寧ロ政府ノ名義ヲ以テセズ然ルヘキ方法(本使ノ問ニ対シ新聞社等ニ申含ムルノ趣旨ナリト答タリ)ヲ以テ新聞紙ニ右趣旨ヲ発表セシムルコト却テ我方希望ノ趣旨ニ合ストシ居タルガ貴見如何ト問ヒタルニ付本使ハ重大ナル本件ヲ帝國政府ニ於テハ斯ル公平寛大ナル条件ニテ解決ヲ計ラントスル次第第二付支那政府ハ帝國政府カ此ノ公表ヲ頗ル重大視シ居レルニ顧ミ当然当方ノ希望ヲ容レ貴國政府ノ誠意ヲ表示セラルルコトヲ切ニ期待シ(脱)当方ニ於テモ一応研究ヲ試シシモ兎ニ角國務會議等ニ提出篤ト帝國政府存意ノ次第考慮アリタキ旨答ヘ置ケリ就テハ右希望条項ノ趣旨発表ニ関スル外交總長代理ノ申出ハ一応尤トモ考ヘラルル処支那政府ノ名義ヲ以テセズ政府筋ヨリ然ルヘク新聞紙ニ言ヒ合メテ発表セシムルコトニシテ然ルヘキヤ御詮議ノ上御電訓ヲ請フ

奉天ニ転電シ吉林長春關東長官ヘ転電セシメタリ

九二〇 九月九日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

信員ノ確ナルモノニ内示スルコトアルヤモ計リ難キニ付右御承知ノ上其辺ノ裁量ハ本使ニ御一任ヲ請フ

奉天ヘ転電シ長春、吉林、關東長官ヘ転電セシメタリ

九二一 九月九日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件交渉ニ関シ中央政府ヨリ電訓ナキ

旨張作霖談話ノ件

第二六四号 (九月十一日接受)

九月九日張作霖ニ面会ノ序ヲ以テ寬城子事件ニ関シ北京政府ヨリ何等電訓ニ接セザルヤト尋ネタルニ張ハ本件交渉ノ支那側当局者ハ既ニ屬命令アリシ通り在吉林鮑督軍兼省長ニシテ自分ハ未ダ何等ノ電訓ニ接セズ又今後ト雖北京政府ガ自分ヲ本件解決交渉ノ当局者トナスベキ電訓ヲ發セザルコトヲ確信スト述ベ其理由トシテ北京政府ガ東三省外交權ノ巡閱使ニ統一セラルルコトヲ好マザルモノナリト語レリ

(九月九日)  
在支公使長春吉林關東長官ヘ電報セリ

九二二 九月十日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九二一 九二二

一〇〇八

寬城子事件交渉ノ模様大体ニ関シ日本側新聞記者ニ(路透通信員ヘハ徳川ヨリ)内話ノ旨報告竝今後ノ発表ニ付当方ニ一任方稟請ノ件

第一二二八号 (九月十日接受)

往電第一二二五号ニ関シ

本件交渉ノ模様ハ何ノ途支那側ヨリ漏洩スベシト思ハルルニ付九月九日日本使日本側新聞記者ニ対シ単ニ(一)本件ニ関シ昨日日本使外交部ヘ要求ヲ提出シタルコト(二)右ハ六項ヨリ成リ一項ハ中央政府ノ処置ヲ求ムルモノナルガ他ノ五項ハ地方官憲ノ処置ヲ求ムルモノナレバ奉天ニテ張巡閱使ト交渉スベク其内時宜ニ依リ長春又ハ吉林ニテ交渉スルコトナル場合アルヤモ知レズ右五項ハ參考ノ為一併提出シ置キタル次第ナルコト(三)外交總長代理ハ本日ノ國務會議ニ提出ノ上成ルベク速ニ回答スベシト答ヘタルコト又ヲ談話シ置キタリ尚徳川ヲシテ路透通信員ニ対シ右ノ諸点丈内話シ当館ノ公表トハセズシテ報道スルモ(脱)置タリ

尚今後支那側漏洩ノ状況如何ニ依リテハ単ニ支那側誤報判斷ノ資料トシテ内々談話スル儀ニシテ直ニ其儘公表スルノ趣旨ニ非ザル旨ヲ篤ト申聞ケタル上要求条項全部ヲ内外通

張巡閱使ヘ我方ノ寬城子事件要求条項早急提

出方小幡公使ヨリ申越ノ件

第二六六号 (九月十一日接受)

在支公使發本官宛電報第一六〇号

二十四日發

貴電第二二五号ニ関シ要求条項ハ早晚支那側ヨリ漏洩スルモノト覚悟セザルベカラズ漏洩シタル後貴官ヨリ張巡閱使ヘ提出スルコトナルガ如キハ面白カラズト思考セラルルニ付愈交渉ヲ開始スルニハ國務會議ノ結果中央政府ノ訓令到達スルヲ待ツノ要アリトスルモ条項ヲ提出スルダケハ最早時ヲ移サズ御実行相成置カルル方然ルベキカト存ズ為念申進ズ 外務大臣關東長官ヘ電報アリタシ

九二三 九月十日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

寬城子事件ニ関シ交渉上好マシカラザル報道

東京各紙ニ散見スルニ付實地新聞通信員ニ対

シ注意方訓令ノ件

第一一四二号

寬城子事件ニ関シテハ屢次ノ電報ニテ御承知ノ通り我方ヨ

九二三 一〇〇九

リハ大局ニ顧ミ務メテ公正妥当ノ条件ヲ提議シ速ニ円満解決ヲ了シ度希望ニテ之カ為メニハ可成世間ノ注目ヲ避ケ彼我ノ交渉ヲ容易ナラシムルノ要アル処本件發生以來東京各新聞紙上ニ動モスレハ本件ニ関スル記事ヲ散見シ甚タ好マシカラズト存シタルニヨリ隨時必要ノ措置ヲ執リツツアリシ折柄八月二十四日九月十日ノ貴地朝日新聞特電ニ簡單ナガラ本件交渉ノ内容ニ触レタル事実ヲ報道シ其内今回ノ修正案ハ原案ニ比シ強硬ノモノトナレリト云ヘルガ如キ自然排日一派ノ知ルトコロトナラバ今後ノ交渉ニ意外ノ支障ヲ来スコトナキヤヲ氣遣ハルルニヨリ御氣付ノ儀トハ存ズルモ貴地新聞通信員等ニ対シテハ相当御注意相成様致シタシ尚滿洲方面ヨリモ似寄ノ報道大連新聞ニ現ハレ居ルニ付閣係各領事ニ於テモ特ニ注意ヲ払フ様致度ニヨリ本電ハ本大臣ノ訓令トシテ奉天長春吉林ノ各領事ニ転電シ参考ノ為メ閣東長官へ転電アリタシ

九二四 九月十日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寛城子事件ノ際ノ邦人被害ニ関シ先方ニ賠償要求ノ必要アリヤニ付請訓ノ件

往電第一二二八号ニ関シ

九日ノ路透通信ハ早速右往電徳川説明ノ大要ヲ掲ケタル外要求条項ノ大要ヲモ公表シ居リ右ハ支那側ヨリ出デタルモノナルコト勿論ナルガ最後ニ右条項ハ何レモ頗ル穩当ト認メラレ居ル旨ヲ附言シアリ十日ノ支那新聞中条項ヲ掲ケタルモノナキモ是又要求ノ寛大ナルコトヲ報セルモノ鮮カラズ支那官辺ヨリノ消息ニ依ルモ大体ニ於テ我条件ニ満足シ居ルモノト認メラル

右奉天ニ転電シ閣東長官長春吉林へ転電セシメタリ

九二六 九月十日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寛城子事件ニ関スル我方申入ニ対スル國務會議ノ結果ニ付外交総長代理ニ尋ネタルノ件

第一二三五号

往電第一二二五号ニ関シ  
九月十日日本使外交総長代理ニ会見シ國務會議ノ結果ヲ尋ネタル処同代理ハ昨日ノ國務會議ニ本件解決条件及写真等ヲ持参シ各閣員ニ示シタルモ龔總理代理他ニ所用アリ十分熟議ノ時間ナカリシ為メ明十一日ノ會議ニ正式ニ提出シ相談

第一五二号

貴官宛奉天總領事宛電報第一三三三号ニ関シ

(1)松ノ屋ガ銃丸飛来シ爾後暫ク營業中止ニ依リ蒙リタル実損害嚴重査定ノ上支那側へ要償スルノ必要アルヤ

(2)事變前支那軍当地ニ集中ノ際我警官ヲ毆打シ附屬地内ニテ馬車ヲ徵發シタル等ノ件ニ就テハ本件ト關係ナク別個ニ交渉スベキヤ

(3)事變中邦人官名附屬地内ニテ流弾ノ為メ左腕關節ニ貫通傷ヲ受ケ其後一ヶ月入院未ダ屈伸ノ自由ヲ(脱)受ケルコト調査洩トナリ居タリ此事実ニテ支那側ヲ同意セシメ得トセバ棄代要償等ノ必要アルベキヤ右ノ点為念御垂示煩ハシタシ

在支公使在奉天總領事へ転電シ在吉林總領事及閣東長官へ郵送セリ

九二五 九月十日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寛城子事件解決条項ニ関シ路透通信中国各紙等我要求ノ寛大ニ付報道ノ件

第一二三四号

スル筈ナリ多分貴方ニ満足ヲ与へ得ベキ回答ヲナシ得ルコトト信ズル旨答ヘタリ

奉天へ転電シ吉林長春閣東厅长官へ転電セシメタリ

九二七 九月十一日 東在中國日本公使館付陸軍武官ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

寛城子事件ニ対スル日本政府ノ処置ニ関シ新雲鵬等ノ談話報告ノ件

支極秘三七九号

一、昨日新雲鵬ハ寛城子事件ニ関シ我国カ非常ナル好意ヲ以テ交渉ヲ開キタルニ対シ厚ク感謝ノ意ヲ表彰シ感激ノ情ニ堪ヘスト述ヘタルニヨリ小官ハ是レ全ク事件發生直後ニ於ケル閣下始メ貴国当局者ノ処置宜シキヲ得タルト平素兩國陸軍ノ提携密接ニ行ハレツツアルノ表徴ナリト賞揚シ尚該事件カ迅ニ解決スル様一層ノ尽力アリタシト申シ置ケリ最後ニ彼ハ特ニ一言シ度キ件アリト前提シテ曰ク現今貴国カ我国ニ対シ種々ノ好意ヲ表セラルルニ拘ラス事々ニ内外ノ貴国ニ対スル惡感アルハ余輩ノ貴国ニ対シ誠ニ相済マサル所ナリ此原因ハ畢竟数年前ノ惡種カ今ニ及ンテ惡果ヲ結ヘルニ過キササルナリ貴国側ノ時カル

ル良種ニハ数年ノ後必ス良果ノ結フアルヲ信ス故ニ余ハ現時ノ大勢ニ関シ必スシモ悲観シアラス願クハ貴國モ今暫ク隠忍セラレンコトヲ切望ス

二、昨日陸參謀次長及傳良佐ニ面会セリ彼等モ亦寬城子事件ニ付テ日本政府カ非常ノ好意ヲ示サレタル旨感謝セシニヨリ靳雲鵬ニ対スルト同様ノ意味ヲ伝ヘ置ケリ尚陸次長ハ日本將校以下ヲ慘殺シ且其際ニ侮辱ヲ加エタルコトヲ承認シ遺憾ノ意ヲ表セリ

昨夕靳雲鵬ハ坂西少將ヲ經テ寬城子事件交渉ニ付キテハ段祺瑞ニ詳細報告シタル処段ハ日本ノ公平ナル処置ニ於テ非常ニ其好意ヲ感謝シ居リタル旨ヲ伝ヘ来レリ

關東濟ミ

九二八 九月十二日 在吉林森田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ鮑督軍ヲ交渉機手トスルハ

事件遷延ノ虞アル旨赤塚總領事ニ電報ノ件

第一〇五号

本官宛在奉天總領事宛第四二号

貴電第九三号ニ関シ張作霖ハ鮑督軍及ビ省長ガ当局者ナリ

公表ノ本意ニ反スル結果ヲ来スベキニ付キ政府責任者ヨリ一般新聞社ニ対シ該趣旨ヲ伝ヘ掲載セシムル手續ヲ取リタキ旨申出タリ本使ハ右形式ニ付テハ九月八日外交總長代理ヨリ申出ノ次第モ有リ目下講訓中ナルガ本使個人ノ意見トシテ外交總長代理ガ新聞記者ヲ呼審セ該趣旨ヲ陳述シ之ヲ広ク新聞紙ニ掲載スルノ形式ナレバ或ハ宜シカラント考ヘ居レルモ政府ヨリ電訓アリ次第更ニ申入ルベシ尤モ本件解決条件ハ極メテ公正寛大ナルニ付何人ガ之ヲ見ルモ非難スベキ謂レナク支那政府カ反对者ヲ云々セラルルモ日本ニモ政府反对派等アリ本件解決条件ノ輕キニ不満ヲ懷ケルモノ多キ事情アルニ付支那政府ニ於テモ特ニ日本政府ノ公正ナル措置ヲ諒トシ誠意公表方篤ト考量アリタキ旨並ニ他五ヶ条ニ関シテハ至急中央政府ヨリ張巡閱使ニ対シ交渉ニ応ジ迅速ニ解決ヲ計ルベキ様電訓アリタキ旨申伝ヘタル処同人ハ直ニ總長代理ニ轉達スベシトテ引取レリ就テハ右希望条項公表形式ニ関シ至急御電訓ヲ請フ

九三〇 九月十二日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

奉天ニ転電シ吉林、長春、關東長官へ転電セシメタリ

ト談話シタル趣ノ処本官ノ此迄鮑督軍ニ対シ得タル印象ニ依レバ同督軍ハ孟將軍以上ノ好々爺ニシテ更ニ決断力ヲ有セズ稍々重要ナル事件ハ總テ張ノ意見ヲ求メタル後ニ非ザレバ処理シ得ザル状態ニテ(孟將軍モ本官ニ対シ度々此事ヲ談話セリ)若シ孟督軍ヲ相手トスルニ於テハ徒ニ事件ヲ遷延セシムルノミト思考セラル御参考迄ニ

九二九 九月十二日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ熊秘書來訪ノ上國務會議ノ

結果ヲ通報シ且公表ノ形式ニ関シ申出ノ次第

アリタルニ付講訓ノ件

第一二四一号 (九月十三日接受)

往電第一二三五号ニ関シ

九月十一日外交總長代理ノ命ニ依リ熊秘書本使ヲ來訪シ本日國務會議ノ結果支那政府ハ中央ニ於テ処理スベキ第一項ノ条件ヲ承諾スベキ旨ヲ述ベ支那政府自發的ニ処理スベキ希望条項ニ付テハ該趣旨ヲ公表スルコトニハ何等異議ナキモ政府ノ名義ヲ以テセバ告示ノ如キ形式ヲ以テスルノ外ナキモ斯テハ政府反对者等ニ種々ナル口実ヲ与ヘ却テ該趣旨

寬城子事件我要求第一項ニ関シ中国政府ヨリ

遺憾ノ意ヲ表スル公文ヲ送付越ノ件

第一二四六号

寬城子事件要求第一項ニ関シ九月十二日外交總長代理ヨリ同日附公文ヲ以テ冒頭ニ七月廿二日徐總統令全文ヲ掲ゲ次に本件詳細ノ弁法ニ関シテハ既ニ張巡閱使ニ対シ貴國奉天總領事ト和衷商議スベキ旨電報セル外当國政府ハ本件ニ関シ歎忱ヲ表スルニ付貴國政府ニ轉達アリタシトノ旨申越セリ

委細郵報

奉天、關東長官へ転電シ奉天ヨリ長春吉林へ転電セシメタリ

九三一 九月十三日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子事件日本要求第一項ニ関シ中国政府ノ

公文写送付ノ件

附屬書 九月十二日附陳外交總長代理ヨリ小幡公使宛公

文写

機密第三九四号 (九月二十三日接受)

大正八年九月十三日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

寬城子事件我方要求第一項ニ関シ陳外交總長代理ヨリ九月十二日附公文接到セル次第並ニ其大要ハ往電第一二四六号ヲ以テ及報告置候処右公文写茲許及送附候条御査閲相成度候也

本信写送付先 奉天、長春、吉林、関東庁長官

(附屬書)

九月十二日附陳外交總長代理ヨリ小幡公使宛公文写

照会

外交部次長代理部務陳為照会事関於長春中日兵衝突一案七月廿二日奉

大總統令開撫東三省巡閱使張作霖吉林省長郭宗熙電呈吉軍在長春二道溝地方与日兵衝突互有死傷現經彈压制止等語該團營駐劄長春接近鄰軍心如何申明節制乃平時漫無約束該團營長等實難辭咎著陸軍部查明職名先行呈請免職師長高士儉壇將軍隊調集長春附近致釀重案尤屬謬妄著開去師長職務一

併交巡閱使張作霖暨新任督軍鮑貴卿切實查弁孟恩遠身縮軍符不能嚴申紀律亦有成得之咎既經調任著鮑貴卿迅速馳往接替一應善後事宜即由鮑貴卿妥慎并理該省地方重要孟恩遠未經交卸以前仍當約束軍隊維持秩序不得以先經奉調遽行卸責也此令等因奉此查此次吉林軍隊未能嚴申節制以致釀成重案除關於本案詳細并法已電奉天巡閱使与貴國駐奉天總領事和衷商議外本國政府對於此案深表歉忱相應照会

貴公使即希

查照轉達

貴國政府為荷須至照会者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國八年九月十二日

九三二 九月十七日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

寬城子事件公表ニ関シ中国ガ我提案受諾ヲ難

シトスルニ於テハ我要求第一項ノ公文書中ニ

公表案全文ヲ記入スル様交渉方訓令ノ件

第一一五七号

トスルニ於テハ前述ノ通り提案第一条ノ公文中ニ改メテ公表案全文ヲ記入スル様交渉相成様致シタシ  
奉天へ転電シ吉林長春関東庁長官へ転電セシメラレタシ

九三三 九月十七日

在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件交渉方中央ヨリ張作霖ニ訓令済ノ

件

第二七三号

在支公使發本官宛第一七一号

貴電第一八四号ニ関シ早速外交總長代理ニ尋ネタルニ張作霖ニハ既ニ去ル十一日訓令ヲ發シ更ニ人ヲ奉天ニ派遣シタルガ張ハ条件ノ一二ニ関シ不滿ノ点アルヤニ申出居ル旨答ヘタリ

外務大臣関東庁長官長春吉林へ転電アリタシ

九三四 九月十八日

在吉林森田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉林省議會ハ寬城子事件ヲ地方的問題トシテ

解決スベキモノナル旨中央ニ電報ノ件

第一〇六号

寬城子事件ニ関シ十六日吉林省議會及各団体ヨリ張巡閱使國務院外交部ニ対シ本件ハ吉林ニ於テ地方的ニ解決スヘキモノナル旨電報シ吉林省長ニ対シテハ支那側ヨリ条件ヲ提出シテ強硬ニ談判スヘク全省人民ハ之ニ後援ヲ与フヘシトノ書面ヲ提出セル由御参考迄ニ、委細郵報公使、奉天、関東長官へ電報セリ

九三五 九月十八日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ハ現制度下ニ於テハ寬城子事件交渉ノ衝ニ当ルヲ得スト称シ居ル趣ノ情報通報ノ件

第二七六号

在支公使發本官宛電報第一七二号

当館諜報者カ大總統府コウ秘書ノ語ル所トシテ報スル所ニ依レハ張作霖ハ寬城子事件ヲ機會ニ政府ニ強要シ東三省巡閱使官制ヲ發布スルニアラザレバ本件ノ如キ奉天ニ關係ナキ事件ハ衝ニ当ルヲ得ズト唱へ居ル趣ナリ本使發奉天宛往電第一七一号外交總長代理カ本使ニ対シ張作霖ニ於テ聊カ不服ノ廉アル旨ヲ洩シタルハ蓋シ右ノ次第ヲ意味セルモノト想像セラル尚張ヨリ吉林郭省長ノ更迭ヲ上申シ来リタル

要求条件中張自ラ謝罪スルコトヲ好マザルト将来ノ保障ニ付日本軍隊ガ領事館又ハ警察署所在地ニ於テ自ラ直接支那軍隊ニ対シ強硬ナル交渉ヲ断行スルニ於テハ到底保障ノ責ニ任スルコト能ハザル旨ヲ述ヘタル趣ナリ御参考迄  
在支公使関東長官、長春、吉林各領事へ電報セリ

(附記)

寬城子事件日本要求ニ対スル張巡閱使ノ見解ニ関スル件

関參謀第四八七号

(九月二十九日接受)

大正八年九月二十三日 関東軍參謀部

情報 第三八三号

寬城子事件ト張巡閱使ニ関スル件

(九月二十二日  
関東憲兵隊報)

首題ノ件ニ関シ奉天ヨリ安東旧市街某処ニ達シタル情報ヲ聞クニ左ノ如シ

張巡閱使ハ九月十四日重要ナル督軍公署員及巡閱使公署員ヲ召集シ其ノ他各機關ノ長官等モ参列外交會議ヲ開催シタルカ張作霖ハ先ツ寬城子事件ノ交渉ヲ報告シテ曰ク日本ヨリ提出シタル六ヶ条ハ

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九三七

ヲ以テ國務院ニ於テハ孟憲彝ヲ其後任トシテ詮衡シツツアリト云フ(十八日)

外務大臣関東都督長春吉林へ転電アリタシ

九三六 九月二十二日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ニ於テ寬城子事件交渉ニ当タルヲ承諾

ノ件

附記 九月二十三日関東軍參謀部情報

寬城子事件ト張巡閱使ニ関スル件

第二七八号

寬城子事件交渉問題ニ関シ九月二十二日当地外交特派員關海清ノ吉原ニ談話セル概要左ノ通

本件ニ関シ当初北京政府ハ張作霖ヲ本件交渉ノ当局者ト為スコトニ付張ノ同意ヲ求メ来リタル処張ハ之ヲ拒絕シタルガ政府ハ更ニ在京中ナル張ノ部下參謀長ヲ急ニ奉天ニ返シテ意思ノ疏通ヲ為サシメタル結果愈々張ニ於テモ本件交渉ノ当局者タルコトヲ承認シ其趣本日北京政府へ電報シタル筈ナレバ不日交渉ヲ開始スルノ運ニ至ルヘシ云々ト語レリ尚張作霖ガ秘密トシテ嘗テ吉原ニ内話セル所ニ依レバ我方

- 一、戦死傷者ノ為ニ要求セル慰藉金過大ナルコト
- 二、警察官及同書記ノ懲罰ニ関スルコト
- 三、事端ヲ醸成シタル中国陸軍ノ官兵懲罰ニ関スルコト
- 四、本巡閱使親シク日本領事館ニ赴キ謝罪スルコト
- 五、本事件ニ關係シタル中国陸軍ノ処分方ニ関スルコト
- 六、大總統ヨリ吉林軍隊ヲ戒告スル訓令ヲ發シ且其ノ訓令文ハ日本領事館ノ考查ヲ経ルコト

以上ノ六条ニシテ此ノ六項ハ未タ政治的權利問題ヲ含有セスト雖其ノ要求スル処甚タ酷ニ過ク況ンヤ本問題ハ地方ノ交渉問題ナリ死傷者ノ慰藉金其他ノ四項ハ之ヲ忍フヘキモ大總統ヲシテ一ノ戒告訓令ヲ發セシメ之ヲ全国ニ宣布セシムルカ如キハ最モ酷ノ甚タシキモノニシテ決シテ承認スヘキモノニアラスト思考ス云々ト述ヘ滿場ノ諸員モ亦之ニ一致シテ第六項ノ不承認ヲ可決シ即日政府ニ向ケ打電シタリト云フ

九三七 十月三日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件公表問題ニ関シ外交總長代理ニ対

シ訓令ノ趣旨ヲ申入レタル件

第二九二号

(十月四日接受)

在支公使發本官宛電報第一七九号  
在支公使發本省宛第一三〇八号

貴電第一一五七号ニ関シ十月一日日本使外交總長代理ニ会見  
シ御電訓ノ趣旨ニ依リ希望条項ハ帝國政府ニ於テ最モ重キ  
ヲ置ク所ナルヲ以テ是非トモ支那政府ノ名儀ヲ以テ正式公  
表方実行アリタク万一該公表ヲ支那政府ニ於テ困難トセラ  
ルル事情アラバ帝國政府ハ其苦衷ヲ諒トシ之ヲ撤回スベキ  
モ其場合ニハ其代リ提案第一条ノ公文中ニ更ニ右希望条項  
全文ノ趣旨ヲ記入セラルルコトトスルモ差支ヘ無之旨申入  
レタル処同總長代理ハ右ハ篤ト考量スベキモ地方ニ於ケル  
交渉ノ解決近ヅク迄延期ヲ願度シト答ヘ更ニ実ハ張巡閱使  
(脱)細ナル報告ニハ接シ居ラズ且ツ此機会ヲ以テ一言致  
シ度キハ張巡閱使ヨリ本件ノ起リハ日支兩國將校間ニハ故  
意又ハ何等意志ノ誤解アリタル次第第二非ザルコトハ日本側  
ニテモ認メラルル所ニテ要スルニ本件ハ単ニ兩國兵士間ノ  
私闘ト目スベキモノニ過ギズ從ツテ其責任ハ双方ニアリト  
モ認メラルルヲ以テ可成交渉ノ範圍ヲ縮小シタキ旨申越シ  
居レリト述ベタルニ付本使ハ元來本件ノ發生ハ兩國將校間

要求セズ極メテ寬大公正ナル条件ヲ提出シ至急円満ナル解  
決ヲ計ラントシツツアルニ張巡閱使カ今日ニ至リ本件ノ責  
任双方ニアリ交渉範圍ヲ縮小センナドト述ブルガ如キハ以  
テノ外ナル了見ニテ帝國政府ノ断シテ承認シ能ハザル所ナ  
リト最モ強硬ニ弁駁シタルニ対シ(外交總長代理)ハ最初  
本件交渉ノアリタル当時自個人トシテ述ヘタル如ク本件  
解決案ハ穩当ト認メ又我政府ニ於テモ大体ニ於テ公平ナル  
モノト認メ居ル次第第二シテ右張巡閱使ノ申越セル見解ハ必  
ズシモ政府及自分等ノ意見ニアラズト述ベ右ノ次第宜シク  
了承アリタシト説明シタリ当方申入レニ対シテハ何レ同代  
理ヨリ何分ノ回答ニ接スベキモ右不取敢電報ス尚本件急速  
解決ハ当方ニ於テ此後トモ充分強硬ニ督促ノ答ニ付御含置  
ヲ請フ

關東庁長官、長春、吉林へ転電セリ

九三八 十月四日

在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛

暫定治安維持法撤廃交渉完了ノ件

附屬書一 十月三日付陶吉長道尹ヨリ村上領事宛公文第

三〇九号号

ニ最初ヨリ故意ニ起リタルモノニ非ザルコトハ事実ト認ム  
ルモ貴國軍隊ガ少数ナル我將卒ニ対シ故無く突然發砲シ多  
數ノ死傷ヲ出ダシタルヨリ我方ニ於テハ止ムヲ得ズ正当防  
衛ノ手段ニ出デタルニ過ギザル次第ナルノミナラズ現ニ過  
般手交ニ及ビタル写真ニ依リ明瞭ナルガ如ク残忍極マル凌  
辱ヲ我將卒ノ死屍ニ加ヘタルハ支那軍隊ノ節制無キ不規律  
ノ結果ニシテ其責任ハ当然直接ニ統率者及ビ支那政府ニ於  
テ負担スベキハ固ヨリ言ヲ待タザル所ニシテ若シ仮リニ斯  
カル事件ガ支那ト他外国トノ間ニ發生シタリトセンカ如何  
ナル重大問題トシテ峻嚴ナル条件ヲ課セラルベキハ素ヨ  
リ想像シ難カラザル所ナリ彼ノ英國ノ吳州問題ノ如キ僅ニ  
一人ノ警察官ガ重傷ヲ負ヒタルニ拘ハラズ多額ノ賠償及嚴  
重ナル条件等ニテ漸ク解決ヲ告ゲ又米國軍艦ガ前年長江筋  
ニテ支那軍隊ヨリ射撃ヲ受ケ一兩名ノ死傷アリタル事件ニ  
対シテモ大總統令ノ發布多額ノ賠償及嚴重ナル条件ヲ以テ  
解決セリト聞知セルニ顧ミ本件ノ如キ死者十八名傷者十八  
名ニ達シ殊ニ人道上黙止スベカラザル残忍ヲ極メタル重大  
事件ナルニ拘ラズ帝國政府ガ虚心坦懷兩國邦交ノ親善ト東  
亞ノ大局ヲ顧念シテ死傷將卒ニ対シテスラ何等ノ賠償ヲモ

二 十月四日付村上領事ヨリ陶吉長道尹宛公文  
第七九号号

機第二五号

(十月十三日接受)

大正八年十月四日

在長春

領事 村上 義温(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

暫定治安維持法廢撤ト之ニ伴フ我方提出ニケ条件ヲ道尹ニ  
於テ内諾セシニ不拘督軍ノ承引ヲ受ケ能ハサリシ支那側事  
情ニ関シテハ既ニ九月十六日附機密第二二号拙信ヲ以テ稟  
報ノ如クニ有之候処其後陶道尹約ノ如ク直チニ吉林ニ赴キ  
滯在一週間更ニ歸長ノ翌日奉天ニ直行同敷一週間ヲ経テ九  
月二十六日歸來其間鮑督軍ト暫定治安維持法廢撤及寬城子  
事件交渉振りノ二件ニ就テ巨細打合セヲ為シタル上更ニ鮑  
ガ其後者ニ関シ未ダ充分ナル訓令乃至報告ヲ北京政府ヨリ  
接到セサリシ關係上同督軍ノ旨ヲ受ケテ張巡閱使ヲ訪ヒ協  
議了解ヲ得タルヤニテ同員ハ二十七日小官ノ往訪ニ対シ其  
ノ自己ガ赴吉鮑督軍ヲ説キ彼ヲシテ當該留保の二条件ヲ引  
諾セシメタル次第ヲ語りタル上右ニ関シ早速公文照会ヲ貴

領事ニ發スヘキ訳合乍ラ自分即日更ニ吉林ニ赴クノ要アルヲ以テ(張巡閱使ト打合セノ結果ヲ報告ノ為メ赴吉セシモノナリ)右文書ノ發送ハ帰長ノ後ニ讓ルヘシトテ予メ案文ニ就テ小官ノ意嚮ヲ問ヒ「通報ヲ双務的トスヘキ」旨ノ新對案ノ撤回ヲ諾シタル上(本信後段所載)越エテ一昨二日交渉員帰長翌三日夕刻ニ至リ別紙甲号写ノ如キ公文ヲ送致シ越セルニ就キ其正ニ我方主張ヲ応諾セルモノナルヲ確メ今四日別紙乙号写ノ如ク当方ヨリ該法ヲ明五日程リ廢撤ニ歸セシムヘキ旨ヲ正式ニ回答是ニテ本件全部打切リト致置候間右ニ御了承相成候様致度候  
猶ホ交渉員來翰中

(1)「附屬地内通過ニ関シ在來ノ取扱手續ニヨル」トアルハ既報ノ如ク督軍事件以前ノ慣行ヲ意味シ即チ(A)少数ノ支那兵武裝ノ儘我附屬地内ニ入ラントスルトキハ地界ノ巡查派出所ニ申出テ警務署ノ許諾ヲ俟テ入市スヘク(其数多数ニ上ル場合ハ警務署ヨリ更ニ守備隊長ト許否ニ就テ協議スヘキ旨曩ニ関東庁ヨリ指令アリ)(B)又支那軍隊ノ附屬地内通過ニ当テハ(本來ハ之ヲ許ササル関東庁ノ趣旨ナルヤニ了解ス)予メ領事館ニ申出テ其許可ヲ受クルヲ要スル事ヲ

ニ過キズ將又

(4)滿鉄「附屬地」ト「用地」トヲ別チ記セルハ鐵道沿線附屬地ノ外之ニ聯結セル鐵道馬車ノ沿路及石碑嶺ノ炭砒等ヲモ包含セシガ為メニセルモノニ有之候次第併セテ御含置相煩度候

右本四日發拙電第一六五号確メ旁々別紙來往文写相添ヘ為念詳報申進候 敬具

追テ本件写ハ在支公使、関東庁長官、在奉天、在吉林ハルビン各総領事及農安分館主任ヘハ直接、立花関東軍司令官ヘハ当地守備隊長山口中佐ヲ經テ夫々及送付置候也

(附屬書一)

甲号写

十月三日附陶吉長道尹ヨリ村上領事宛公文第三〇九号

照会 第三〇九号

為照会事案査関於撤廢暫定治安維持法一案前准貴領事第八〇号來照閱悉是査此案屢經晤商所有各情已互相了解即前項暫定弁法六款撤廢之後其以前派駐中東鐵路二道溝站界内之巡警仍即照常設置所有中国軍隊大部隊之通過滿鐵路界及

此際明確ニシタルモノニシテ

(2)「長春城内外及其附近支那大部隊異動駐屯ノ節」トアルハ畢竟長春及其附近ヲ支那軍隊ノ通行又ハ駐屯スルトキト解スヘキモノニシテ元來三十支里内云々ト明記ストモ事實判定ニ苦ム場合多ク要ハ接近セル地域ニ於ケル場合ヲ規定スルヲ以テ足ルモノナルニ付里数ヲ記スルヲ避ケ別ニ「友誼的誠意ヲ以テ」ナル字句ヲ設ケテ實際ノ運用ニ融通ヲ利カシタル訳合ニ有之

(3)「滿鉄附屬地及之ニ隣接用地ニ駐屯スル我守備隊ノ異動ニ就テ均敷本官ヨリ支那側ヘ通告ヲ希望スル」旨ノ申添ニ関シテハ過日小官ニ案文ヲ提示ノ際二道尹ヨリ鮑督軍ノ訓令トシテ双務的ト致度旨新タニ申出アリタルニ對シ小官ヨリ我兵員ニ就テハ軍律良ク整ヒ且駐屯ノ部隊兵数等既ニ明瞭トナリ居ルノミナラズ其移動毎ニ新聞紙上ニモ公表サレ居ル実情ナルニ鑑ミ通報ノ必要無之ト信ズル旨ヲ述ベテ体良ク之ヲ謝絶シタルニ對シ先方ニ於テ然ラバ単ニ希望トシテ公文ニ之ヲ記載シ置ク事ト致度ト申出アリ右ニ関シテハ單ナル希望ナランニハ記入隨意タルヘク尤モ當方ニ於テハ何等是ニ依テ拘束サルル儀ニ非ル旨ヲ答ヘ置キタル結果

零星武裝兵隊出入滿鉄用地仍照滿鉄沿線向來弁法并理此外於二道溝事件未結以前長春城内外及附近如有大部隊之軍隊異動或通過時當於事前以友誼的感情向貴處通知而滿鉄用地長春用地内及其隣接滿鉄用地所駐貴國軍隊如有異動或有軍隊通過時亦希望

貴處以友誼的感情於事前向敝處通知以期彼此諒解而免万一誤會為此照覆即希

貴領事査照并理所有前定維持治安弁法六款即作為本月三日撤廢可也此照会

日本駐長春領事村上

吉長道尹兼長春交涉員 陶彬

中華民國八年十月三日

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者暫定治安維持法廢撤ノ件ニ関シテハ曩ニ貴領事第八〇号公信ヲ以テ御來示ノ趣委細閱悉致候査スルニ本件ニ付テハ屢御面商ヲ經一切ノ事情ハ互ニ了解セル所ニ有之即チ右暫定弁法六款廢撤ノ後ハ其以前東支鐵道二道溝鐵道附屬地内ニ派遣駐在シタル巡警ハ仍テ平常ノ如ク設置スルコト總テ大部隊ノ支那軍隊ニシテ滿鉄附屬地ヲ通

過スル場合及零碎ナル武装兵ニシテ滿鉄用地ニ出入ノ場合ハ滿鉄沿線在来ノ手續ニ依リ取扱フコト此外二道溝事件結了以前長春内外及附近ニ於テ大部隊ノ軍隊ノ異動或ハ通過ノ節ハ事前ニ友誼的感情ヲ以テ貴処ニ対シ之ヲ通知スルコトニ致候而シテ滿鉄長春用地内及其隣接滿鉄用地ニ駐屯スル貴國軍隊ニシテ異動アリ或ハ軍隊通過ノ時モ亦貴処ニ於テ友誼感情ヲ以テ事前ニ敝処ニ対シ通知セラレ以テ互ニ相諒解シテ万一ノ誤会ヲ免ルル様期セラレンコトヲ希望致候就テハ貴領事ニ於テ御詮議ノ上前ニ協定シタル治安維持法六款ハ本月三日撤廃セラレ候様致度此段照會得貴意候

中華民國八年十月三日

敬具

吉長道尹兼長春交涉員 陶彬

在長春日本領事 村上義温殿

(附屬書二)

乙号写

十月四日附村上領事ヨリ陶吉長道尹宛公文第七九号

公文第七九号

大正八年十月四日

在長春日本帝國領事 村上義温

支那共和国吉長道尹兼長春交涉員 陶彬殿

以書翰致啓上候陳者暫定治安維持法廢撤方ニ関シ屢々貴我双方ノ間ニ於テ商議了解ニ至リシ所ニ基キ今後支那軍隊又ハ武装支那兵ニシテ日本滿鉄附屬内ニ出入シ又ハ之ヲ通過セントスルトキハ在来ノ滿鉄沿線附屬地ニ関スル一般取扱振リニ依ルヘク將又寬城子事件解決了了ノ間ニ於テ支那軍隊ノ長春城内外及其附近ニ於ケル異動通過又ハ駐屯ニ際シテハ予メ事前是ヲ當館ニ通告スヘキ旨本月三日附第三〇九号貴信ヲ以テ御申出ノ趣欣悉致候依テ貴交涉員ノ誠意ニ信賴シ本年七月二十日貴國代表高前任師長及本邦側代表森田前任領事高山前任獨立守備隊司令官ノ間ニ協定作製セラレタル暫定治安維持法ヲ茲ニ廢撤ニ帰セシムル事ト致候間右ニ御了承相成度此段及回答候 敬具

追テ右廢撤ノ期日ヲ本月三日ヨリトスヘキ貴員御申出ニ関シテハ貴信第三〇九号昨三日夕刻ニ至リ接到ノ処關係各方面ニ通牒周達ノ必要有之候結果明五日ヨリト致度將又滿鉄附屬地駐屯日本軍隊ノ異動又ハ通過ノ場合ニ関スル御希望ノ点ハ一応當方ニ於テ勘考可致此段申添候也

九三九 十月八日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件奉天交涉ニ於テ先方方略我要求ヲ

受諾シタルニ付請訓ノ件

別電一 同日在奉天赤塚總領事宛内田外務大臣宛第三〇二号ノ別電一

中国側回答概要

二 同日在奉天赤塚總領事宛内田外務大臣宛第三〇二号ノ別電一

右中国側回答説明

第三〇二号(至急) (十月九日接受)

寬城子事件交渉ノ結果支那側ハ我方ノ提出案ニ対シ概要別電第一号ノ通り回答シ来レリ即チ第一項ハ北京ニ於テ審理シ第二項ハ提出案中ヨリ張作霖ノ陳謝ヲ取消シ第三項第四項第五項弁理ノ結果ハ何レモ先方ヨリ自発的ニ本官へ通知スルコト第六項ハ主義上之ヲ認メテ細目ハ長春ニ於テ協議スルコトトシ又追加条項トシテ張巡閱使ヨリ書面ヲ以テ本件發生ニ対シ遺憾及哀悼ノ意ヲ表示ス可キ旨ヲ申出来レリ尚詳細ハ別電第二号支那側回答案説明ニ依リ御承知相成リ度ク実ハ張作霖ニ於テハ当初ヨリ本件交渉ノ責任者タルコトヲ好マザル模様アリシノミナラズ吉林側即チ各省長及

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九三九

省議會等ニ於テ本件交渉ニ対シ強硬ノ態度ヲ執ル可キ旨ノ建議ヲ提出シ来リシ為メ吉林側ノ該主張ヲ全然無視スルコト能ハザル立場トナリ為メニ成ル可ク我方ノ要求ヲ輕減セントシ殊ニ第四項末段巡閱使ノ陳謝及第五項具體的將來ノ保障案ヲ我方ニ通知シ来ルコトニ対シテハ強硬ナル反對ヲ試ミタリシガ折衝ノ結果漸次我方要求案ト接近シ来リ遂ニ別電第一号ノ如キ回答案ヲ提出シ来リタル次第ニシテ該回答ニ依レバ實質ニ於テ殆ド我方ノ要求ヲ容レタルモノト見テ差支ナシト思考セラルルヲ以テ之ニテ本件ヲ解決致シ度ク別電第一号及第二号御査閱ノ上折返シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

別電ト共ニ公使、吉林、長春、関東庁長官ニ電報セリ  
(別電一)

十月八日在奉天赤塚總領事宛内田外務大臣宛電報第三〇二号ノ別電一

第三〇二号ノ別電

(支那側回答案)

第一項 北京ノ問題ナリ

第二項 本件責任者ニ対シテハ張巡閱使ト鮑督軍ト会同シテ大總統令ニ從ヒテ査弁シ其ノ結果ヲ在奉天日本

總領事ニ通知スルコト

第三項 直接指揮シタル將校及加担シタル下士卒竝凌辱ヲ

行ヒタルモノハ調査ノ上夫々嚴重処分スルコト

第四項 当時保護不十分ナリシ巡警ニ対シテハ其ノ直屬長

官ヲ戒飭シ竝將來ヲ警戒スルコト

第五項 張巡閱使ヨリ東三省全部軍隊ニ命令シテ日本官民

ヲ特別保護優待スルコト

第六項 長春ニ於テ弁理ス

追加条件 張巡閱使ハ書信ヲ以テ本件ノ發生ニ対シ遺憾ヲ

表シ竝遺族ニ対シ哀悼ノ意ヲ表スルコト

(別電二)

十月八日在奉天赤塚總領事宛内田外務大臣宛電報第三〇二号ノ

別電二

第三〇二号ノ別電二

(支那側回答説明)

我方提出案第二項末段張作霖ガ日本總領事館ニ赴キ陳謝スル件ハ張ニ於テ直接責任者ヲラザル關係上甚ダ苦痛トスル所ナルノミナラズ第一項ニテ中央政府ガ既ニ日本公使ニ対シ遺憾ノ意ヲ表示セル以上重複ノ嫌アル陳謝ノ件撤回アリ

度ク其代リ書面ヲ以テ本官ニ対シ遺憾ノ意ヲ表示スルコトトシタシト云フニアリ

第三項末段処罰ノ(脱)的ニ右結果ヲ奉天總領事ニ通知スルコトニ改メタシトノ趣旨ナリ

第四項主義上ニ付テハ異存ナキモ当時巡警ガ果シテ暴行ニ加担シタルヤ否ヤ明瞭ナラズ但シ我巡警ノ保護ノ行届カザリシハ事実ナルヲ以テ其ノ廉ヲ以テ直屬巡警長官ヲ戒飭シ將來ヲ警戒スルコトトシタシ

第五項將來事件ノ再発ヲ防止スルガ為具体的方法ヲ講シ奉天日本總領事ニ通知シテ承認ヲ求ムルコトハ支那軍隊ノ体面上甚ダ面白カラズ要ハ斯ノ如キ事件ノ再発ヲ防止スルニアルヲ以テ此意味ヲ以テ特別ナル訓令ヲ発スルコトニ止メタシ

右第三項第四項処罰竝戒飭ノ結果及第五項ノ訓令文ヲ奉天日本總領事ニ通知スルコトハ何レモ支那側自発的ノ措置トシテ之ヲ解決条件中ニ記載セザルコトトシ別ニ覚書ヲ以テ之ヲ奉天日本總領事ニ声明スルコト

第六項ハ主義上異存ナキヲ以テ此趣旨ヲ以テ長春道尹ニ訓令シ速ニ日本領事ト交渉シテ解決スルコト

ラレ到底其同意ヲ得難キ場合ニハ原案ニ迄讓步セラレ差支ナク右ニテ全部解決スル様御尽力相成タシ

次ニ貴電第三〇二号ノ二末段支那側希望ノ次第ハ至極尤モノ儀ト存セラルルニヨリ今後ハ能フ限り右ノ方針ニ依ルヘキ旨ヲ言明セラレ差支ナシ

北京吉林長春關東庁ハ転電アリタシ

九四一 十月二十七日

在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件奉天交渉ニ於ケル先方回答第五項

二 関シ再請訓ノ件

第三二〇号

(十月二十八日接受)

貴電第一六〇号ニ関シ

解決案第五項ハ支那側ヨリ当方ニ写ヲ送附スベキ東三省軍隊ニ対スル該項ノ訓令中ニ軍隊ノ規律ヲ嚴重ニシテ取締ヲ行フコトニナリ居ルヲ以テ所謂保護優待ノ文句ハ右訓令ト相待チテ我要求ノ目的ヲ達セラルルモノト思惟シ其儘電報シ置キタルモノナル処御電訓ノ趣旨御尤ノ次第ニ付右ニ関シ支那側ト折衝シタルニ先方ニ於テハ將來ノ保障トシテ公然具体的計画面ヲ通知シ来ルコトヲ肯ゼザルハ勿論最モ

有効ナル方法ヲ採ルベキコトノ保障ト云フ文句サヘ之ヲ該  
条項中ニ記載スルハ支那軍隊ノ面目上如何ニモ日本側ヨリ  
強制セラレタル形アリテ各軍隊將校等一般ノ反対ヲ買フベ  
キ虞アルノミナラス内部關係上吉林側ヲ納得セシムルコト  
モ甚ダ困難ナリト稱シテ如何ニ説得シテモ承諾ノ見込ナク  
結局左ノ通り修正セシムルコトトセリ

第五項 張巡閱使ヨリ東三省各軍隊ニ通令シテ最モ適切ナ  
ル方法ヲ以テ嚴重取締ヲ為シ將來日本ノ軍隊及官民ニ対シ  
再ビ暴行ヲ加フルコトヲ得ザラシム

右ニ対シ差シテ御異存ナクハ御承認ヲ得タク其ノ上ニテ正  
式解決ノ処置ヲ採ルベキ筈折返シ何分ノ義御回訓ヲ請フ  
閣東庁長官吉林長春ニ電報セリ

九四二 十一月十日 内田外務大臣ヨリ  
在奉天赤塚総領事宛 (電報)

寬城子事件先方回答第五項ノ修正案同意ノ件

第一七九号

貴電第三二〇号ニ関シ第五項ハ御来示ノ通り同意シ差支ナ  
キニヨリ至急解決方取計ハレタシ尚各項取極メノ実行方ハ  
能フ限り速ニ取運フ様張作霖へ申入レ置カレタシ

九四五 十一月十四日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

寬城子事件ニ関シ小幡公使ヨリ外交総長代理

ニ対シ我提案実行方督促並同総長代理ヨリ新

公文發送方申出ノ件

(十一月十六日接受)

第三四五号

在支公使発本官宛第二〇五号

在支公使発本省宛第一四四五号

貴電第一三〇八号ニ関シ十一月十日日本使外交総長代理ニ会

見本件奉天交渉ノ情況ニ関シ話出テタルヲ以テ同交渉ノ近

状ニ付テハ本使ヨリモ奉天ニ問合ハスヘキモ何レ近ク解決

セラルヘキモノト考ヘラルルニ付我希望提案ヲ速ニ承諾実

行セラレタキ旨督促シ置キタル処其後御電訓ノ次第アリタ

ルニ依リ更ニ十二日同総長代理ニ会見御電訓ノ次第ヲ述ヘ

至急我希望条項実行方交渉ニ及ヒタルニ同総長代理ハ支那

政府ノ名ヲ以テ貴國ノ希望条項ヲ発表セントスルニ対シテ

ハ政府公報ニ掲載スルノ外ナク而シテ同公報ニハ大總統指

令各部ノ呈文書類又ハ布告等ノ形式以外ニ公表ノ方法ナク  
旁本件ガ折角公正妥当ナル弁法ニ依リ近ク解決ヲ告ケント

北京吉林長春閣東庁へ転電アリタシ

九四三 十一月十日 内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使宛 (電報)

寬城子事件ニ関シ先方ニ於テ速ニ我提案受諾

方尽力セラレ度件

第一三〇八号

寬城子事件ニ関スル奉天ノ交渉近ク解決セラルヘクト存セ  
ラルルニ就テハ我方提案第一項ハ貴電第一三〇八号ノ次第  
モアリ可成速ニ支那側ヲシテ承諾実行セシムル様御尽力相  
成タシ奉天へ転電シ吉林長春閣東庁へ転電セシメラレタシ

九四四 十一月十二日 在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

寬城子事件奉天交渉ハ全部解決ノ旨小幡公使

ニ報告シタル件

第三三九号

(十一月十三日接受)

本官発在支公使宛電報第二二七号貴電第二〇一号ニ関シ寬  
城子事件問題ハ当地ノ関スル限り事実既ニ全部解決シタル  
ヲ以テ(不明)日正式ニ解決ノ手續ヲ取り運ビ同時ニ支那  
側ニ対シ之ガ実行ヲ求ムル筈ナリ

スル際突然布告等ニ依リ政府公報ニ掲載セラルレハ支那当  
局者ハ十分ニ日本ノ公正ナル外交ヲ諒トスルモ一般国民ノ  
注意ヲ喚起シ又種々ナル反対諍解等ヲ生シ兩國間ニ又々不  
快ナル感情ノ齟齬ヲ惹起スルノ虞アルハ明カニシテ兩國政  
府ノ希望ニモ反スル次第ト考ヘ又先般御話アリタル如ク第  
一項ノ照會文中ニ記入スルコトハ何分二ケ月前既ニ發送シ  
タル公文ヲ此際變更シテ又々訂正スルモ甚ダ面白カラザル  
ニ付自分ノ考ニテハ奉天交渉ノ解決ヲ俟テ別ニ新公文ヲ發  
送シテハ如何ト存ス尤モ右公文ノ文句等ハ双方共協議ノ上  
決定致度考ナリト申出デ該公文ノ文句ニ関シテモ余地ヲ存  
シ度キ口吻洩ラシタルニ付本使ハ該希望条項ハ屢次申入レ  
タル通り帝國政府ニ於テ最モ重キヲ置ク所ナルヲ以テ第  
一、貴國ノ自發的ニ政府ノ名義ニテ正式公表方ヲ希望シ万  
一右手続ニ支那政府ニ於テ困難トセラルル事情アラバ其ノ  
苦衷ヲ諒トシ第一項公文記入ニ替ヘテモ差支ナシトノ訓令  
ヲ受ケ居ル次第ニテ別ノ公文ニテ我が希望条項記載ノモノ  
ヲ送付セラルルコトハ本使個人トシテハ又一方法カト考フ  
ルモ政府ニ請訓ノ上ナラデハ確答シ難ク殊ニ該公文ニハ我  
希望条項ノ趣旨通ノ文句ヲ記載スルコトヲ前提トシテノ話

ニアラザレバ今更右ノ次第ヲ政府ニ取次難キ次第ニ付此ノ  
点ヲ明確ニ致シ置キ度シト述ベタルニ同総長代理ハ該公文  
等ハ日本政府ニ於テ公表セラルルモノナリヤト問ヒタルニ  
付本使ハ公表スベキヤ否ヤハ承知セザルモ本件ノ如キ重大  
事件ニ就イテハ何レ国会其他ニ於テ質問等ノ場合アルベキ  
ニ付政府ニ於テモ自然交渉ノ經過顛末等ヲ発表スルノ必要  
アルベシト考フルニ依リスノ如キハ公表スルモノト承知セ  
ラレタキ旨申入レタル処同総長代理ハ十五日ノ國務會議ニ  
於テ相談ノ上何分ノ儀回答致スベキニ付夫迄請訓ヲ見合サ  
レタシト申出デタリ依テ本使ハ之ヲ諒諾スルモ國務會議ニ  
於テハ是非本件ノ重大案件タル性質ニ顧ミ迅速ニ我希望条  
項実行ノ決定方ヲ要望シ置ケリ

關東庁長官、在長春及在吉林各領事へ転電セリ

九四六 十一月十七日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ朱秘書來訪ノ上靳総理ノ意

見ナリトテ中国公文ニ記入スベキ文句ノ修正

方申出デタルニ付請訓ノ件

第一四六二号 (十一月十八日接受)

十一月十六日外交総長代理ノ命ニ依リ朱秘書本使ヲ來訪シ  
外交総長代理ヨリ本使トノ会見ノ次第ヲ十五日國務會議ニ  
於テ討議シタル結果靳総理ハ日本政府希望条項ノ趣旨ハ十  
分之ヲ諒トスルニ付公文發送ハ承諾スルモ「何等挑発ヲ受  
クルコトナク」ヨリ「殘虐凌辱ヲ以テセリ」迄ノ文句ヲ公  
文ニ記載スルハ支那軍隊ノ不名誉ヲ正式ニ暴露スル次第ニ  
テ甚タ苦痛トスルニ付「中国軍隊ノ一部ハ日本將士ニ對シ  
射撃衝突セル一案」ト改メ末段ノ「我亦タ誠意ヲ以テ之ニ酬  
インコトヲ期ス」ハ「本国政府宜シク誠意ヲ以テ感記スヘ  
シ」ト改メ他ハ全部日本希望通りノ文句ニ致シタシトテ該  
修正文ヲ提示シ外交総長代理ハ別ニ異見ナキモ何分靳総理  
ノ意見右ノ次第ニ付是非右ニテ承諾願ヒマシキヤト申出タ  
リ依テ本使ハ靳総理ガ支那軍隊ノ不名誉ヲ暴露スルヲ苦痛  
トセラルルハ諒トスル所ナルモ事實支那軍隊カスル非人道  
ノ暴行ヲ敢行シタル次第ニテ右暴行ヲ受ケタル日本政府及  
軍隊トシテハ更ニ苦痛ノ程度深キ次第ナリ殊ニ本件ハ對外  
交渉問題トシテ重大事件ナルノミナラズ其ノ解決如何ハ直  
接日本ノ内政問題ニモ重大ナル影響ヲ來タズベク現政府ハ  
斯ル重大事件ナルニ拘ラズ兩國ノ友誼ニ顧ミ公正寛大ナル

条件ヲ提出シ而モ希望条項ニ付テハ最モ重キヲ置ケル所ナ  
ルニ貴國政府ヨリ正式發表ノ苦衷ノ存スル点ヲモ了察シ公  
文ニテモ差支ナキコトニ迄讓歩シタル次第ナルニ更ニ右公  
文中当方ノ重要視セル肝要ナル文句ヲ修正スルガ如キハ今  
更本使トシテ政府ニ請訓シ難キ次第ナルニ付右修正ノ文句  
通りニテハ遺憾ナガラ承諾シ難シ靳総理ニ於カレテモ日本  
政府ノ友誼及苦痛ト面目トヲ顧念セラレ更ニ考慮ヲ加ヘラ  
ルル様致シ度ク修正文句ニ付テハ本使ニ於テモ研究スベキ  
旨ヲ述ベ帰ラシメタリ事情右ノ次第ナルモ軍人タル靳総理  
ノ苦痛ノ点ヲ諒察シ後段修正ノ文句ハ公文トセル關係上支  
那側ノ懇願通りニシテ差支ナシト認メラルルモ前段ハ我方  
ノ重要視セル点ナルニ付支那側が承諾スルヤ否ヤハ断言シ  
難キモ原案ノ意味ヲ含有シ多少婉曲ニ表示セシメン為メ例  
ヘバ「突然射撃シ多数將士ノ死傷者ヲ生ゼシメ殊ニ其死体  
ニ對シ凌辱ヲ加ヘタリ」トノ文意ヲ然ルベキ個所ニ記入セ  
シムルコト位ニテ此ノ上更ニ交渉シ成ルベク迅速ニ解決ス  
ルコト然ルベキカト思考ス何分ノ義折返シ至急御電訓ヲ請  
フ

奉天ニ転電シ關東庁長官、吉林、長春へ転電セシメタリ

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九四七 九四八

九四七 十一月二十二日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件被害者見舞金及賠償ノ額変更ノ件

第一八一号 (十一月二十三日接受)

往電第一七九号ニ関シ

陶交渉員奉天ニ於テ巡閱使ト打合セテ了シ帰任ノ上曩ニ合  
意ニ至リシ解決方法中左ノ変更ヲ申出テ本官亦同意ヲ与  
タリ

(一) 船津ノ見舞金ヲ増シテ三百円トス

(二) 其ノ代リ松ノ屋及岩吉商会ノ二件ヲ合セテ千七百円ヲ仕

払フ

尤モ右計二千円實際ノ分配ハ日本領事ノ裁量ニ委ス

尚本件ハ手続上一応直ニ吉林督軍ニ稟申シ其ノ回答ヲ待ツ  
テ即時実行ノコトトセリ

在支公使在奉天及吉林總領事並關東庁長官ニ転電セリ

九四八 十一月二十四日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子事件ニ関連シ日中間ニ事件發生ノ場合

ニハ日本領事官ヲ經テ弁理方張巡閱使ヨリ希

望申出ニ対シ同意ノ旨通報シタル件

機密公第六一号

(十二月一日接受)

大正八年十一月二十四日

在奉天

総領事 赤塚 正助(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

日本軍隊ニ対スル支那側ノ希望ニ関スル件

拙電第三〇二号ノ別電ニ末段ヲ以テ及報告置候本件ニ関シ別紙写ノ通支那側へ言明致置候条右御査閱相成度尚申ス迄モ無之候へ共右ニ基キ陸軍当局ヨリ関東軍司令官ノ必要ナル訓令ヲ発スル様御取計相成度此段申進候 敬具

(別紙)

写

公文第六〇八号

大正八年十一月十九日

赤塚総領事

張巡閱使宛

拝啓陳者寬城子事件モ愈々円満ナル解決ヲ告ケタル処予テ貴方御希望トシテ將來斯ノ如キ不祥事件ノ再発ヲ予防スル

為今後支那軍隊ノ取締ヲ嚴重ニスヘキハ勿論ナルト同時ニ

日本側ニ於テモ当該軍隊ニ嚴重飭令シテ事件発生ノ場合ハ最寄日本領事官ヲ經テ之ヲ弁理スベク直接交渉シテ事端ヲ発生セシメザル様致度シトノ事ニテ当方ノ同意ヲ求メラレタル御趣旨ニ対シテハ本総領事ニ於テ同意ヲ表シ候条右御了相成度此段得貴意候 敬具

九四九 十一月二十五日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

寬城子事件ニ関シ中国公文ニ記入スヘキ文句

ノ修正ニ付回訓ノ件

第一四六〇号

貴電第一四六二号ニ関シ御申越ノ通り取計ハレ差支ナシ

奉天へ転電シ吉林長春閣東庁へ転電セシメラレタシ

九五〇 十一月二十五日

在奉天赤塚総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件奉天交渉妥結ノ旨報告ノ件

第三五一号

(十一月二十六日接受)

貴電第一七九号ニ関シ

十一月二十三日附ヲ以テ左ノ通解決シ竝至急実行方ヲ申入

九五一 十二月六日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寬城子事件ニ関シ中国公文ニ記入スヘキ文句

ハ我方申入ノ通り先方承諾ノ件

第一五四四号

貴電第一四六〇号ニ関シ其後本使外交総長代理ニ会见交渉

ヲ重ネ十一月十七日外交部ヨリ送來リタル草案ノ前段ニ

「中国軍隊ノ一部ヨリ日本將士ニ対シ突然射撃ヲ開始シ日

本將士ノ多数死傷者ヲ生セシメ殊ニ其屍体ニ対シ重大ナル

凌辱ヲ加ヘタル一案」ナル文句(重大ナル以下往電第一四

六二号記載ノ辞句ト差アレド右ハ先ツ我方条件中ノ文句通

リトナシ置キ交渉ノ余地ヲ存シ置キタル次第ナリ)ヲ書キ

加フル様主張シタル処同総長代理ハ新総領事ト商議ノ上之ヲ

承諾シ第六項長春ニ於ケル商議事項ニ付吉林督軍省長ヨリ

解決済ノ回答アリ次第第二回公文トシテ送附スヘキ旨答へ

タリ依テ為念十二月四日西田ヲシテ右第二回公文草案全文

ヲ記シ外交部ト打合ヲ遂ケシメ置キタル処右草案通りノ公

文ヲ發送スヘシト述ヘタル趣ナリ

奉天へ転電シ吉林長春閣東庁長官へ転電セシム

コト

第三項 直接指揮シタル將校及加担シタル下士卒竝凌辱ヲ

行ヒタル者ハ調査ノ上夫々嚴重処分スルコト

第四項 当時保護不十分ナリシ巡警ニ対シテハ其ノ直屬長

官ヲ申飭シ竝將來ヲ警戒スルコト

第五項 張巡閱使ハ東三省各軍隊ニ通令シ最モ適切ナル方

法ヲ以テ嚴重取締ヲ為シ將來日本官民及軍隊ニ対シ再ヒ暴

行ヲ加フルコトヲ得サラシム

第六項 長春ニテ弁理ス

追加条項 張巡閱使ハ書信ヲ以テ遺憾竝遺族ニ対シ哀悼ノ

意ヲ表スルコト

在支公使在長春領事及在吉林総領事へ電報セリ

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九五二

九五二 十二月九日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子事件ニ関シ我方申入ノ通りノ文句ヲ記  
入シタル公文ヲ外交総長代理ヨリ送付越ノ件

附屬書 十二月八日付陳外交総長代理ヨリ小幡公使宛公  
文写

機密第四九六号 (十二月十五日接受)

大正八年十二月九日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

寬城子事件ニ関シ支那政府ヨリ最後接受セル公文

写送付ノ件

寬城子事件ニ関スル我方希望事項ニ付最近支那側トノ折衝  
情況ハ屢次及電報置候処陳外交総長代理ハ結局本使申入通  
リノ字句ヲ其公文内ニ記入スルコトニ同意シ即チ十二月八  
日附ヲ以テ別紙写ノ如キ照會文ヲ送付シ来リ候依テ右字茲  
ニ及送付候間御査閱相成度此段申進候也  
本信写送付先奉天、吉林、関東庁長官

一〇三二

(附屬書)

十二月八日付陳外交総長代理ヨリ小幡公使宛公文写

照會

外交次長代理部務陳為照會事本年七月十九日在吉林寬城子  
中国之一部軍隊対日本将士突然開槍致生日本将士之多数死  
傷且對於屍身加以重大之殘虐凌辱一案中国政府接報後深為  
遺憾今見日本政府為解決此案所提之要求甚屬妥當足徵具有  
善隣之誼中国政府當經照允令該管官吏趕速弁理按中日国交  
原應敦睦此次日本政府表彰之友誼本國政府亦宜以誠意感記  
相応照會

貴公使査照為荷須至照會者

右 照 會

大日本国欽命駐華全權公使小幡

中華民國八年十二月八日

(右和訳文)

以書束致啓上候陳者本年七月十九日吉林寬城子ニ於テ支那  
ノ一部軍隊ガ日本将士ニ対シ突然銃ヲ放チ日本将士ニ多数  
ノ死傷ヲ生セシメ且ツ屍体ニ対シ重大ノ殘虐凌辱ヲ加ヘタ  
ル事件ハ支那政府ハ報告ニ接シ深ク遺憾トスル所ニ有之候

大正八年十二月十二日

在長春

領事 村上 義温(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

昨十一日往電第一九一号ヲ以テ不取敢及稟報置キタル本件  
ニ関シ陶交渉員ヨリノ公文三通左記ノ通り夫々写供高覽候  
間御査閱相成度將又右公文ト同時ニ金二千元也(船津ヘノ  
三百円、松ノ屋及岩吉商会二口ヘノ千七百円ヲ合セタルモ  
ノ)正ニ手交ヲ受ケ(公文ヲ附セス)置候間右ニ御了承相  
成度此段申進候 敬具

追テ馬車徵発ニ関スル支那側今後ノ取扱振並ニ本件交渉  
経過ノ大要ニ関シテハ別信ヲ以テ夫々報告ノ筈ニ有之為  
念申添候也

左記

- (1) 滿鉄駅夫船津ニ対スル補給並ニ陳謝ニ関スル交渉員來翰  
写(別紙甲号)
- (2) 邦人木村境田兩名ノ流弾ニヨル負傷ニ対シ遺憾ノ意ヲ表  
示セル交渉員來翰写(別紙乙号)
- (3) 附屬地内ニ於ケル馬車徵発ニ際シ栗坪巡查ニ加害セシ行

支那駐在

大日本国特命全權公使 小幡西吉殿

九五三 十二月十二日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛

寬城子事件長春交渉ノ諸案件解決ニ関スル件

附屬書一 滿鉄駅夫ニ対スル補給及陳謝ニ関スル交渉

員來翰写並右領承ノ旨村上領事往翰写

二 邦人ノ流弾ニヨル負傷ニ対スル遺憾ノ意表

示ノ交渉員來翰写並右領承ノ旨村上領事往

翰写

三 邦人巡查ヘノ加害ニ対スル陳謝其他ニ付交

渉員來翰写並右領承ノ旨村上領事往翰写

機密第三三号

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九五三

一〇三三

為ノ不法ナルヲ認メ陳謝ト共ニ犯人ノ查弁及今後ノ保障方ニ関スル交渉員來翰写(別紙丙号)

(右各小官ヨリノ領承公文写ヲ添フ)

本信写送附先 在支公使 在奉天吉林各總領事閣東厅长官

(附屬書一)

甲号写(交渉員來翰)

吉林吉長道道尹兼長春交涉員公署公函八年交字第三五七号

敬啓者民國八年七月十九日南滿鐵路長春駅夫船津被本國軍隊毆打成傷一案茲由本員補給医药費日本金參佰円以資慰藉

本員对此用表遺憾合亟檢同日本金參佰円函送

貴領事希即查収轉達為盼此致

村上領事台鑒

中華民國八年十二月十一日

(村上領事往翰)

大正八年十二月十一日

在長春

日本帝國領事 村上 義温

支那共和國吉林吉長道道尹兼長春交涉員 陶彬殿

拜啓陳者本日附貴信ヲ以テ「民國八年七月十九日南滿鐵道

兩人流彈ニ因リ受傷シタルハ本員ノ遺憾トスル処ニ有之右御了承ノ上御轉達相成候様致度」旨御來函ニ接シ領承致候

此段回答得貴意候 敬具

(附屬書三)

丙号写(交渉員來翰)

吉林吉長道道尹兼長春交涉員公署公函八年交字第三五九号

敬啓者中華民國八年七月十八日日本國兵士徵發軍用車輛闖入

滿鐵地内不服日警攔阻以刺刀傷及栗坪巡查甚屬不合本員深

用遺憾其加害者自應查弁免致再蹈覆轍為此函達希即

查照為何此致

村上領事台鑒

中華民國八年十二月十一日

(村上領事往翰)

大正八年十二月十一日

在長春

日本帝國領事 村上 義温

支那共和國吉林吉長道道尹兼長春交涉員陶彬殿

拜啓陳者本日附貴信ヲ以テ「中華民國八年七月十八日日本國兵士方軍用ノ車輛ヲ徵發センガ為メ滿鐵附屬地内ニ闖入シ

長春駅夫船津ガ本國軍隊ニ毆打セラレ受傷シタル件ニ付キ

茲ニ本員ヨリ医药費日本金參佰円ヲ補給シ以テ慰藉ニ資ス

本員ハ此ニ對シ遺憾ヲ表シ日本金參佰円ヲ檢同シ貴領事ニ

及御函送候間御查収ノ上御轉達相成候様致度」旨御來函ニ

接シ領承致候此段回答得貴意候 敬具

(附屬書二)

乙号写(交渉員來翰)

吉林吉長道道尹兼長春交涉員公署公函八年交字第三五八号

敬啓者民國八年七月十九日木村境田兩人因流彈受傷本員以

為遺憾為此函達希即

查照轉達可也此致

村上領事台鑒

中華民國八年十二月十一日

(村上領事往翰)

大正八年十二月十一日

在長春

日本帝國領事 村上 義温

支那共和國吉林吉長道道尹兼長春交涉員 陶彬殿

拜啓陳者本日附貴信ヲ以テ「民國八年七月十九日木村境田

日本警察官ノ攔阻ニ服セズシテ銃劍ヲ以テ栗坪巡查ヲ傷ケ

タルハ甚タ不法ニ屬ス本員ハ深く遺憾トシ其加害者ハ自ら

応サニ查弁シ再ヒ覆轍ヲ踏ムコト無キ様致ス可ク候間右御

了承相成度」旨御來函ニ接シ領承致候此段回答得貴意候

敬具

九五四 十二月十五日

在長春村上領事ヨリ

內田外務大臣宛

寬城子事件長春交渉ノ諸案件ニ関スル交渉經

過報告ノ件

附屬書一 十一月六日村上領事ヨリ交渉員ニ手交ノ要

求条件覚書(一)

二 同右要求条件覚書(二)

三 十一月八日交渉員ヨリ提示セル对案覚書

機密第三四号

(十二月二十三日接受)

大正八年十二月十五日

在長春

領事 村上 義温(印)

外務大臣子爵 內田康哉殿

本月十一日結了ニ至リシ本件ニ関シ(往電第一九一号ヲ以

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 九五四

一〇三四

一〇三五

テ稟報)

(一)十一月六日初メテ交渉員ノ請ニ応シ小官ヨリ手交セル要求条件覚書二通(別紙甲号及乙号)

(二)之ニ対シ八日先方ヨリ提示セシ対案覚書(別紙丙号)ノ各写別添及送附間御査閲相成度將又

(1)右覚書手交ノ際我ヨリ先方ニ対シ予メ各件別個ノ二種類ニ属スルモ便宜一併解決セントスルモノナル旨ヲ告ケタル上(イ)松ノ屋要償額ハ得ヘカリシ利益ノ欠損算定難ノ都合上妥当ヲ失スル無キヲ保セサルニ付之ヲ一千四百円ニ切下クルモ可(ロ)岩吉商会ノ分ハ計算ノ煩ヲ避ケ四百円トスルモ可ナル旨ヲ附言シ又(ハ)道尹ノ内相談ニ対シ船津ヘノ見舞金ハ二、三百円ヲ降ルヘカラサル旨ヲ答ヘ且ツ加害者ノ捜査処罰ハ不能ヲ強フルニ均シカルヘキヲ以テ敢テ之ヲ求メサルニ付キ特ニ深キ陳謝ヲ期待スル旨ヲ申添ヘ是ニ対シ

(2)先方ハ対案提出ノ後数次ニ更テ(イ)巡查刺傷ノ件ニ就テハ犯行ノ翌日高旅長道尹ト共ニ当館ニ来リ親シク新山官補及橋本署長ニ謝罪スル処アリ随テ既ニ解決セリト見做スヘキ旨(ロ)馬車徴発ノ新取極ニ関シテハ我方指摘

十一月六日村上領事ヨリ交渉員ニ手交ノ要求条件覚書(一)

一、満鉄駅夫船津被害

(1)七月十九日寛城子ニテ支那兵ノ為メ殴打セラレ  
(2)十五日間満鉄病院ニ入院退院後四日間静養ノ後出勤今日ニ至ル(但当初ノ内ハ比較的閑散ナル仕事ニ当ル事トセリ)

爾来今日ニ至ルモ猶ホ左肩ノ背部少シク痛ムモ仕事ニハ差支ナシ今後数ケ年氣候激変ノ節ハ痛ミヲ感ズトノ診断

(3)被害額

(イ)治療費、入院料入院中ノ諸雜費藥代食料看護婦雇料退院後ノ療養費

(ロ)治療中ノ収入欠損

日給ニシテ月六十円トナル

(ハ)暴行ノ際遺失セシモノ

一、財布一個 金十四円五十銭余在中

二、金縁眼鏡一個 拾六円八十銭

(ニ)苦痛及今後ノ不自由ニ対スル慰藉

(4)特ニ寛大ナル請求ノ趣旨ニ顧ミ損害額ノ賠償ハ之ヲ為ササルヘキニ付相当見舞金ヲ贈リ支那兵暴行ニ就テ遺憾ノ

ノ積弊ヲ認ムルモ新取極案中一ヨリ三マテハ自明当然ノ理ニ属シ改メテ文書ニ規定スルノ要ナク而シテ同五ハ主義及結果ニ就キ異存無ク直チニ之カ実現ニ努力スヘキ考ナリト雖モ如此規約ヲ文書ニ残スハ痛ク支那人ノ自負心ヲ害シ日本カ内政ニ干渉スルノ疑ヲ貽シ特ニ軍人側ニ於テ激烈ニ反対スルノ虞モアルニ付キ之ヲ承引シ難キ旨ヲ縷述セルガ其間彼ハ(a)木村ノ負傷ガ支那側ノ流弾ニ原因スルヤノ事実ニ就テ毫モ争ハス又(b)松ノ屋岩吉商会要償額ノ内容及査定ノ適否ニ就キテ立入り論議スル事無ク単ニ間接損害ハ填補ノ限ニ非スト曲弁シ且ツ岩吉ノ分ハ特ニ好意的ニ撤回セシムル様幹旋ヲ得度旨ヲ繰返シ

(3)爾来彼我応酬ヲ重ネテ十一月十三日ニ至リ当地限りノ合意成リ賠償金額、陳謝ノ形式及公文ノ辞句等詳細ニ亘テ打合ヲ了シ置キタル儘ニ有之候

右交渉成行何等御参考ニ迄別紙相添ヘ報告申進候 敬具  
本信写送付先 在文公使

(附屬書一)

甲号写

旨ヲ交渉員ヨリ日本領事ニ申出ツル事ト致度シ尤モ日本人ヲ無法ニ殴打スルモ見舞金ヲ以テ解決ニ至ラシメ得ヘキヤノ誤解ヲ抱カルル事無キ様將又之ヲ以テ先例ト為スモノニ非サルヘキヲ明確ニ了得セラルルヲ要ス  
註 右(4)ハ朱書セラレタリ

二、流弾ニテ負傷セル木村喜久郎ノ損害

(1)七月十九日午後寛城子事件中我附屬地内東第十八区常藤方ニ於テ其家表硝子戸ヲ貫通セシ流弾ノ為メ左腕関節部約五分下ニ貫通銃創ヲ受ク

(2)約一ケ月通院ノ後静養一週間

爾後静養ニハ及ハサルモ筋肉ノ機能障害ト微痛ヲ覚ユ今後亦然ルヘキ診断ナリ

尤モ金貨業ニ従事スルニハ差支ナシ冬期ニハ痛ミ強カルヘキ見込

(3)治療実費慰藉料

(4)本人ハ相当資産ヲ有スルモノナルニ付均敷ク寛大ノ精神ニ照シ交渉員ヨリ寛城子事件發生ノ結果累ヲ附屬地内ニ於ケル日本人ニ及ボシタルヲ遺憾トスル旨陳謝ノ意ヲ日本領事ニ表セラルルヲ以テ打切リトスルモ可ナリ

註 右(4)ハ朱書

三、松ノ屋ノ被害

(1)七月十九日支那兵発砲ノ標的タリ我兵員該家屋内ニ避難シテヨリ特ニ著敷ク銃丸ノ飛来ヲ受ケタリ同居居住者ハ主人夫婦及娘一人雇人境田夫婦及酌婦六名外ニ支那人二人計十三名

(2)板塀屋根ニ銃丸夥敷ク貫通屋内ニテ家具衣類等ヲ毀損シ家人ハ床下ニアリテ危キヲ免ル

(3)損害額 千五百七十二円

内訳如左

(4)板塀「トタン」屋根屋内造作修繕費百六十円余

(5)避難負傷兵救護ノ為メニ使用セシ「シーツ」衣服類ノ

評価百円余

(6)貫通セル銃丸ノ為メニ毀損セラレタル家具什器ノ損失

評価百三十円

(7)酌婦ノ衣類ヲ入レタル行李三個銃丸ノ為メ焼損セラレ

シモノノ評価三百七十円但シ三個ノ行李中一個ハ全損

ナリ

(8)引揚及休業ノ損失

七月十九日引揚ケ爾来寛城子ノ危険去ラサリシ為メ八月一日迄長春附屬地内ノ知人若石館及片岡ノ好意ニヨリ両家ニ滞在十三名二週間ノ支払実額六十五円八月一日松ノ家ニ帰還セシモノ二週間ハ家屋修繕及周囲ノ情勢尚ホ危険ナリシ為メ開業ニ至ラス此間遭難ニ対スル返礼等モアリ費用嵩三百八十円計リヲ要セリ(爾来九月半ハニ至ルマテ営業無之状態ナリキ)

(9)得ヘカリシ利益ノ欠損

当料理店ハ十三年前露国軍憲ノ希望ニヨリ開業セシモノノ由ニテ毎月平均営業主ニ帰スヘキ純益四、五百円芸妓酌婦ノ分三百円ニ上レリトノ事ナリ

依テ四週間ノ営業不能期間利益ヲ得能ハサリシ損害六百三十二円二十五銭即チ六百三十二円ナリ

右ハ月七百円トシテ三十一日(七月ハ大ナル故)ニ割リシモノヲ二十八倍セル計算ニヨル

(10)雇人境田ナル者該事件中敵弾ノ為メ膝頭ニ輕傷ヲ負ヒ休養治療ヲ要セリ

但本人ハ金錢上ノ要償ヲ潔シトセス

(4)一千五百七十二円全額ノ支払ヲ求ム

三、十五日間入院其後打撲傷ニ就テ三週間通院

四、交渉員正式ニ日本領事館ニ来訪ノ上日本領事及日本警

務署長立会ヒノ面前ニ於テ曩ニ民国兵ガ附屬地内ニ於テ日本警察官ニ対シ拔劍加害ヲ敢テシタル重大ナル不法ニ就キテ陳謝ノ意ヲ表セラルルト共ニ今後加害者ノ捜査及処罰ヲ等閑ニ付スル事ナク又重テ此事無キ様必要適當ノ手段ヲ講スヘキ旨ヲ進テ誓約セラルル事ト致度シ

註 右四ハ朱書

乙、馬車徴発ニヨル被害

一、原因

本年六月ヨリ八月ニ至ル間中国兵士部隊ノ移動盛ンニ行ハレ之ガ携帶品ノ輸送ニ適當ノ機関ナキ結果日本附屬地ノ内外ヲ問ハス支那ノ兵士又ハ巡警ニ依テ馬車ノ強要徴発ヲ受ケタルモノ尠カラス右ニ対シテハ当時日本官憲ヨリ交渉ノ次第アリ

猶本件ニ就テハ左記ノ諸事実ヲ考慮ニ入ルルヲ要ス

(1)従来支那文武官憲ニヨル馬車徴発ハ其日本人ノ所有ニ係ルト又ハ長期ニ亘リ日本人ガ支那人所有主ヨリ賃借

雇人境田ノ負傷ニ就テハ前記船津木村ト一括交渉員ヨリ日本領事ニ遺憾ノ意ヲ表セラルル様致度シ

註 右(4)ハ朱書

(附屬書二)

乙号写

十一月六日村上領事ヨリ交渉員ニ手交ノ要求条件覚書(二)

甲、警務署巡查栗坪主一被害

一、七月十八日午後四時過派出所詰トシテ日本附屬地内東五条街ニテ馬車徴発ニ関シ取締中四名ノ支那兵空荷馬車

ニ台ヲ強制徴発セントシツアルヲ見其不可ナル所以ヲ論シテ制止セントシタルモ応スル色ナク「徴発ニアラスシテ一時二道溝迄借用スルニ過キサレハ日本警官ニ於テ干涉ノ要ナカルヘシ」ト傲語シタル後投石シ更ニ多数ヲ恃ミテ該巡查ヲ打倒シ毆打中一名ハ拔劍シテ同巡查ノ頭部ニ斬リ付ケ負傷セシメタル上二道溝方面ヘ逃走セリ

二、切創ハ後頭部ニ一ヶ所長五仙米深サ骨ニ達シ又前頭部

ニ一ヶ所長サ三仙米深サ骨ニ達シ更ニ長サ二仙米ノ皮創

計三ヶ所ヲ受ケ

外ニ腸部左側ニ打撲傷一ヶ所アリ

中ノモノナルト將又支那人ノ所有使用スルモノタルト  
ヲ不問猶其附屬地内ト外トヲ問ハス支那軍隊ノ移動通  
過軍需品ノ積送アル際強制的ニ見当リ次第之ヲ徵発ス  
ルヲ例トス

(2) 随テ馬車徵発ハ從來屢々其事実アリ而モ之ヲ制抑スヘ  
キ相当ノ方法ヲ講セサリシ結果直接間接ニ多大ノ損失  
ヲ日支兩國商工業者ニ及ホシ来レリ

(3) 徵発ニ当ルハ平時主トシテ民国巡警ナルカ此場合多ク  
日本側ノ抗議又ハ疏明ニヨリテ釈放セラレ得ル処他地  
方ヨリ当地ニ来リ又ハ当地ヲ通過スル支那軍隊ハ土地  
ノ事情ヲ察セス直接兵ヲ派シテ徵発ニ当ラシムルヲ常  
トスルモノノ如ク随テ前記(1)ノ無法徵発亦此場合ニ最  
モ多シ

(4) 徵発ノ上ハ一定ノ金額ヲ賃借料トシテ支払フノ規定ア  
ル由ナルニ拘ラス此支払ヲ為シタル事実極メテ尠キノ  
ミナラス牛馬及馬車ニ対シ糧食乃至食費ヲ給セス威嚇  
之ヲ酷使スルヲ常トスル由

(5) 随テ一旦徵発ノ氣配見エンカ城内ニ散在セル支那馬車  
ハ日本附屬地内ニ遁入シ事実軍隊及軍需品ノ輸送運搬

右事実ニ依ル損害額四百二十一円内訳次ノ如シ

(1) 馬車賃一台一日六円六台六日間ノ分計二百十六円

(2) 斃死セル馬一頭七十円

(3) 馬糧費トシテ苦力頭ノ携帯セル吉林官帖全部費消セ  
シモノ七百二十吊即金二十二円余

(4) 徵発他行六日間苦力頭ヲ使用シ能ハサリシ損失日給  
額九円

(5) 右徵発中虐待セラレシ慰藉ノ為メ馬夫十二人及苦力  
頭一名計十三人ニ八円宛ヲ支払ヒタルモノ計百四円

(B) 其他

(イ) 島名福十郎

七月中旬自家所有ノ荷馬車一台附屬地内ニテ支那兵ニ  
徵発セラレ無賃ニテ二日間使役セラレ又借入レ使用中  
ノ支那馬車一台ヲ附屬地外ニテ同上

(ロ) 丸山直助

七月下旬自家所有馬車四台ヲ支那兵ノ為メ附屬地内ニ  
テ徵発無償ニテ一日使用サル

(ハ) 山下藤蔵

自用及借入ノ荷馬車附屬地内外ニテ徵発サレシモノ通

不可能トナリ曳テ日本附屬地内ニ於ケル徵発ヲ敢テス  
ルニ至ル次第ナリ支那官憲ニ於テ馬車ノ虐待酷使ヲ匡  
正セラルルト共ニ他面或程度迄支那馬車ノ日本附屬地  
内遁入ヲ防キ運搬輸送ヲ可能ナラシメサル限り本問題  
ハ終熄ノ期ナカルヘシト考ヘラル此際根本的ニ解決ノ  
方法ヲ講セントスル所以実ニ茲ニアリ

二、損害額

(A) 岩吉商会(煉瓦製造及販売業)

七月二十六日自家所有ノ大荷馬車十二台ヲ附屬地外東  
門街ニテ煉瓦運搬ニ充テ居リシニ支那兵ノ為メ内六台  
(之カ馬十八頭)ヲ強制徵発セラレ農安方面ニ荷搬ヒ  
セシメラレ八月一日ニ至リ僅カニ用済帰還セリ因ニ該  
馬車ニハ日本官憲ノ注意ニ依リ「岩吉商会専用所有馬  
車」ナル札ヲ貼リ日本国旗ヲ立テ且日本人一名之ヲ率  
領シ居タリ前記十二台中六台ノミカ徵発ヨリ免カレ得  
タルハ其尽力ニヨル猶徵発ニ際シ不安ヲ感シタルニ付  
苦力頭一名ヲシテ官帖七百二十吊ヲ携ヘ同行セシメ以  
テ馬糧ヲ得セシメタリ(本件ニ就テハ当時被害者ヨリ  
搜索方ヲ民国官憲ヘ届出タリ)

計二十四台

(イ) 近藤組

七月中旬自家所有ノ馬車一台宛ニ回附屬地内ニ於テ支  
那兵ノ為メ徵発終日使役セラレ又一回附屬地外ニテ三  
台支那巡警ノ為メ抑留セラレ其々日本人ノ馬車ナル事  
ヲ疏明シ得タル後返却ヲ受ケタルモ為メニ一日使用不  
能ニ終レリ

(ロ) 志岐組

七月中旬自家所有馬車六台ヲ附屬地内ニ於テ支那兵ノ  
為メ徵発セラル

(ハ) 富永仁助

七月二日二台約半日九日二台約一日間十五日一台約半  
日二十日頃六台一日間各附屬地内ニ於テ支那兵ノ為メ  
徵発セラレタル処右馬車八月定メ即チ一台一ヶ月七十  
五円ニテ借受ケ居ルモノナル為メ損害ヲ蒙レリ

(ニ) 岩吉商会

前掲(A)ノ外七月八日吉長駅ニテ三道溝迄糧食運搬ノ為  
メ支那兵ニ依頼セラレ自有馬車十二台ヲ貸シ半日ヲ費  
セシニ賃金ヲ支払ハサリキ外ニ自有ノ馬車ヲ五、六回

モ各短時間徴發セラレシ事アリ

(イ) 長春運輸株式会社

曩二馬車隨時徴發ノ不利益ヲ防カンカ為メ孟督軍ト合意ノ上車馬必要ノ都度支那軍ヨリ依頼アラハ一定貨銀ニテ直チニ調達スヘキ旨ヲ約セル事アリ今次督軍問題發生ト共ニ其注文ヲ受クルコト予期ニ反シテ五百七十六輛ノ多キニ上リ之カ一般賃金一千八百三十七円ナル処全額百九十四円五十五銭ノ支払アリタルノミ差引一千六百四十二円四十五銭ノ欠損ナリ

但シ孟督軍ト特約セシ成行キニ鑑ミ要償ノ意ナシ

(ロ) 其他ニ間接実損害二万一千七百二十五円ノ申出アリシ

モ却下セリ

三、岩吉商会ノ損害四百二十一円ノ支払ヲ求ム

其他ノ損害ハ日支親善ノ見地ヨリ之ヲ要償セス但シ交渉員日本領事間ニ於テ車馬徴發ニ関シ左ノ点ヲ明確ニ協定致シ置キ度シ

(一) 日本人又ハ日本会社ノ所有ニ係ル馬車ハ附屬地ノ内  
外ヲ問ハス支那官憲ニ於テ之ヲ徴發セス

(二) 支那人ノ所有ニ係ル車馬ニシテ事前特定期間日本人

記セル証印ヲ与ヘ以テ証左トナスヘシ

註 右三八朱書

(附屬書三)

丙号写

十一月八日交渉員ヨリ提示セル対案覚書

船津駅夫案

按外交部電文第六項以補給被害者医薬費為限

木村境田中流弾案

由交渉員對於日本領事任意表示遺憾

但不列於寛城子案解決条件内

松之家損害案

直接損害各項一一推求未免難堪擬酌量補給若干以示体恤

警務署栗坪巡查被毆案

交渉員以書信表示歉意

徴發車輛以無条件解決

理由面談

九五五 十二月十六日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

寛城子事件交渉顛末要領ヲ在支主要領事官ニ

通報シタルニ付報告ノ件

一一 寛城子ニ於テ日中西國軍隊衝突一件 九五五

又ハ日本会社へ貸貸シ其使用中ノモノ亦同シ

(三) 日本附屬地内ニ於テ支那官憲ハ車馬ヲ徴發スルコトヲ得ス其日本人所有ニ屬スルト支那人ニ屬スルトヲ問ハス

(四) 附屬地外ニ於テ車馬ノ徴發ニヨリ必要ナル輸送運搬ヲ了スル能ハサルトキハ吉長道尹兼交渉員ヨリ日本領事ニ対シ前段二、ニ該當セサル支那人所有ノ車馬ヲ必要ノ限度ニ於テ適宜附屬地外ニ一時立退カシムル様取計方ヲ申出ツル事アルヘシ日本領事ハ右申出アリタルトキハ是ヲ日本警務署ニ移牒シテ妥当ノ措置ヲ執ラシムヘシ

(五) 吉長道尹兼交渉員ハ公正ト仁慈ノ見地ヨリ支那文武官憲ヲシテ徴發セラレタル車馬ノ御者及牛馬ヲ酷使スルコトナカラシメンカ為メ進テ關係各官庁ト適當ノ措置ヲ講スル所アルヘシ  
猶右實際ノ方法トシテ前記(一)ニ当ルモノニハ日本警務署ヨリ烙印アル木製証標ヲ發給シ民国官憲ニ於テ之ニ証印ヲ付シ前記(二)ニ当ルモノハ契約期間ヲ限レル証標ヲ日本官憲ヨリ發給シ支那側ニ於テモ均敷ク期間ヲ明

附屬書 同日附小幡公使宛在天津船津總領事宛機密第一

八五号信写

機密第五〇六号

(十二月二十二日接受)

大正八年十二月十六日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

大正八年十二月十六日附在天津船津總領事宛機密第一八五号信写送付

寛城子事件交渉顛末要領通報ノ件

註 右在天津船津總領事宛機密第一八五号信ト同文公信ハ在上海山崎總領事宛機密第一七七号、在濟南森總領事宛同第五〇号、在南京岩村領事宛同第三六号、在漢口瀨川總領事宛同第七六号、在広東太田總領事宛同第五六号ヲ以テ夫々送達セラレタリ

(附屬書)

機密第一八五号写

大正八年十二月十六日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉

在天津

總領事 船津辰一郎殿

寬城子事件交渉顛末要領通報ノ件

寬城子事件交渉最近解決ヲ見タルニ付別紙本件交渉顛末要領貴館御参考迄ニ及送付候条御査閲相成度尚本件解決条件ハ未タ公表ヲ見サルモノニ付右御含ヲ以テ御取扱相成度此段申進候也

本信送付先 天津、漢口、上海、南京、廣東

本信送付先 内田外務大臣

(別紙)

寬城子事件交渉顛末要領

小幡公使ハ帝國政府ノ訓令ニ依リ大正八年九月八日陳外交總長代理ヲ往訪シ左記要求条項六ヶ条ヲ提起シ第一項ハ北京ニ於テ第二項乃至第六項ハ奉天ニ於テ交渉シ其内吉林又ハ長春ニ關係アル分ハ夫々當該兩國官憲ニ於テ交渉実行シ度キニ付第一項ハ当地ニ於テ至急実行アリ度ク第二項乃至第六項ニ就テハ帝國官憲ト迅速協議開始方中央政府ヨリ張巡閱使鮑督軍等ニ對シ電訓セラレ度シト申入レ尚希望条項トシテ左記末段ノ公表方ヲ要請セリ

(一)支那政府ヨリ寬城子事件ニ関シ七月二十二日公布セラ

(內南滿洲鐵道株式會社社長春馱々夫ノ被害事件ニ関シテハ在長春帝國領事ト支那當局トノ間ニ加害者処罰被害者ノ医薬手当補給等ノ件ニ付別ニ協議ヲ行フコト

(要求条項終了)

尚別ニ支那政府自發的ノ措置トシテ実行セシムヘキ希望事項左ノ通

支那政府ハ左記趣旨ヲ廣ク新聞紙ニ公表スルコト

本年七月拾九日吉林省寬城子ニ於テ中国軍隊ノ一部ハ何等挑発ヲ受クルコト無クシテ日本將卒ニ對シ突然射撃ヲ開始シ殊ニ其將卒ノ死体ニ加フルニ重大ナル殘虐凌辱ヲ以テセリ中国政府曩ニ報ニ接シ深ク以テ遺憾トナス今ヤ本件解決ノ為メ日本政府ノ提出セル要求ヲ見ルニ各項極メテ妥當ニシテ具ニ善隣ノ睦誼ヲ徵スルニ足レリ中国政府即之ヲ許シ當該官憲ニ命シテ迅速措置セシム惟フニ中日ノ外交素ヨリ敦厚ナラサルヘカラス今次日本政府ノ表彰シタル友情ハ我亦誠意ヲ以テ報インコトヲ期ス

支那政府ハ直チニ我要求条項第一項ヲ容レ九月十二日陳外交總長代理ヨリ同日附公文ヲ以テ冒頭ニ七月廿二日大總統令全文ヲ掲ケ次ニ本件詳細ノ弁法ニ関シテハ既ニ張巡閱使

レタル大總統令ノ全文ヲ公文ヲ以テ在支帝國公使ニ通報シ併セテ本件ノ發生ニ對シ帝國政府ニ向ヒ遺憾ノ意ヲ表スルコト

(一)大總統令ニ基キ張巡閱使鮑督軍ニ於テ迅速當該責任者ノ查弁ヲ了シ張巡閱使ヨリ遲滞無ク其結果ヲ在奉天帝國總領事ニ通報シテ承認ヲ求メ同時ニ張巡閱使自ラ在奉天帝國總領事館ニ至リ本件ノ發生ニ對シ親シク陳謝ノ意ヲ表スルコト

(二)暴行ノ際當該支那兵ヲ直接指揮シタル將校並暴行加担ノ下士卒及凌辱ヲ行ヒタル者ヲ嚴重処罰シ其結果ヲ在吉林帝國總領事ニ通報シテ承認ヲ求ムルコト

(3)軍隊ノ暴行ニ加ハリタル巡警兵ヲ処罰シ其直屬指揮者ヲ処分スルコト

吉林全省警察當局者ヨリ部下全体ニ諭告ヲ發シ今後再ヒ斯ル暴行無カラシムル様嚴重戒飭ヲ加フルコト

(四)東三省ニ於ケル支那軍隊ノ規律ヲ嚴ニシ將來日本官民及軍隊ニ暴行ヲ加フル者無カラシムル為メニ支那當該官憲ニ於テ最有効ナル方法ヲ講シ其具體的計畫案ヲ張巡閱使ヨリ在奉天帝國總領事ニ通報セシムルコト

ニ對シ貴國奉天總領事ト和衷商議スヘキ旨電報セル外當國政府ハ本件ニ関シ深ク歎忱ヲ表スルニ付貴國政府ニ轉達アリタシトノ旨申越セリ但シ希望事項ニ就テハ支那政府ハ國論ノ反對等ヲ懸念シ其發表ヲ容ルルヲ欲セス屢次折衝ヲ累ネタル末遂ニ若干讓歩ヲ為シ新聞紙公表ノ形式ヲ更メテ公文ヲ以テスルコトトシ且ツ文句ニ付協議ノ上多少變更ヲ加ヘ十二月八日附ヲ以テ左ノ如キ公文ヲ小幡公使ニ送付シ來レリ

十二月八日小幡公使宛陳外交總長 代理來翰訳文

本年七月十九日吉林寬城子ニ在ル中国ノ一部軍隊ハ日本將士ニ對シ突然射撃シ日本將士ノ多数死傷ヲ生スルヲ致シ且ツ死体ニ對シ加フルニ重大ノ殘虐凌辱ヲ以テシタル一案ハ中国政府報ニ接シタル後深ク遺憾ト為セリ今日日本政府カ此案ヲ解決スルカ為メニ提スル所ノ要求ヲ見ルニ甚タ妥當ニ屬シ善隣ノ誼ヲ具ヘ有セルヲ徵スルニ足レリ中国政府ハ當時照允ヲ經テ該管官吏ヲシテ迅速ニ弁理セシメタリ按スルニ中日ノ國交ハ必ニ敦睦ナルヘク此次日本政府ノ表彰セラレタル友情ハ本國政府モ亦宜シク誠意ヲ以テ感記スヘキモノナリ依ツテ右貴公使ニ及照會候

北京ニ於ケル交渉ハ右ヲ以テ終了セルカ他方奉天ニ於テハ  
在内地帝國總領事ト張巡閱使トノ間ニ九月下旬交渉ヲ開始  
シ爾來折衝ヲ累ネ十一月二十三日左ノ如ク解決セリ

第一項 北京ニテ弁理ス

第二項 本件責任者ニ對シ張巡閱使ハ鮑督軍ト会同シ大  
總統令ニ遵ヒ查弁シタル結果ヲ在奉天日本總領  
事ニ通知スルコト

第三項 直接指揮シタル將校及加担シタル下士卒並ニ凌  
辱ヲ行ヒタル者ハ調査ノ上夫々嚴重処分スルコ  
ト

第四項 當時保護不十分ナリシ巡警ニ對シテハ其直屬長  
官ヲ申飭シ並ニ將來ヲ警戒スルコト

第五項 張巡閱使ハ東三省各軍隊ニ通令シ最モ適切ナル  
方法ヲ以テ嚴重取締ヲ為シ將來日本官民及軍隊  
ニ對シ再ヒ暴行ヲ加フルコトヲ得サラシム

第六項 長春ニテ弁理ス  
追加条項 張巡閱使ハ書信ヲ以テ遺憾並ニ遺族ニ對シ哀  
悼ノ意ヲ表スルコト

尚第三項第四項第五項ノ結果ハ張巡閱使ヨリ自發的ニ奉天

(註 以上ノ内支那軍隊ノ馬車徵發ニ依ル岩吉商会ノ損害賠  
償並ニ第四項ハ寬城子事件トハ別個ノ問題トシテ取扱  
ヒタリ)

右各条項ハ其後張巡閱使及鮑督軍ノ承認ヲ得タルヲ以テ交  
渉員ヨリ十二月十一日右解決条項ヲ記載セル公文ヲ長春領  
事ニ送致シ來ル手筈ニシテ其上ニテ各条項遲滞ナク実行セ  
ラルルコトトナルヘシ

(大正八年十二月十一日議)

九五六 十二月十六日 在長春村上領事ヨリ  
内田外務大臣宛

馬車軍用徵發問題ニ関シ交渉ノ結果報告ノ件

機密第三五号 (十二月二十三日接受)

大正八年十二月十六日

在長春

領事 村上 義温 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

寬城子事件ニ関聯シテ馬車軍用徵發ニ関シ新タニ取極方ヲ  
道尹ニ交渉セシハ既ニ往電及拙信ヲ以テ累次稟報ノ次第ニ  
有之候処右交渉ノ結果ハ要スルニ左ノ趣旨ニ有之候

總領事ニ通知シ來ルコトトシ同日在奉天總領事ハ右各条項  
迅速実行方張巡閱使ニ申入レタリ

次ニ我要求条項第六項並ニ附帶被害事件ニ関シテハ在長春  
帝國領事ト同地交渉員トノ間ニ交渉ヲ重ネ十一月下旬兩者  
ノ間ニ左ノ通り合意ヲ見タリ

一、滿鉄駅夫船津ニ見舞金三百円ヲ贈リ遺憾ノ意ヲ表ス  
ル公文ヲ附シ長春領事ニ送越スコト

二、附屬地内流弾被害者木村及松ノ屋雇人境田二人ニ付  
テハ一括公文ニテ遺憾陳謝ノ意ヲ伝達方長春領事ニ  
申出ツルコト

三、松ノ屋岩吉商会損害賠償トシテ一括千七百円ヲ支払  
フコト

(註 船津、松ノ屋、岩吉商会賠償金合計二千円ノ實際分配  
方ハ日本領事ノ裁量ニ委ス)

四、栗坪巡查ノ件ハ公文ヲ以テ曩ニ支那兵カ附屬地内ニ  
乱入シ日警ノ阻止ニ服セス銃劍ヲ以テ刺傷セシハ甚  
タ不法ニ付深く遺憾ノ意ヲ表シ且ツ加害者ハ正ニ查  
弁シ又今後此轍ヲ履ムコトナカルヘキ旨ヲ長春領事  
ニ申出ツルコト

(一)我方提案(本月十五日附機密第三四号附屬乙号ノ乙  
所載)ヲ全体ニ於テ彼我ノ口約了解ニ止ムル事トシ

(二)支那側ニ於テ我方指摘ノ馬車徵發ニ関スル積弊ヲ認  
メ是カ手續及方法ニ就キ全然自發的ニ必要ナル改善ヲ加フ  
ヘク

(三)右改善ノ実挙ヲザル限り何等我方ニ於テ附屬地内ニ  
通入スル支那馬車ヲ同地外ニ退去セシムル様幹旋スルノ責  
務ヲ負フ事ナシ

(四)日本人ノ所有ニ屬シ又ハ支那人所有ニシテ特定期間  
日本人ニヨリテ賃借セラルル馬車ハ附屬地内外ヲ問ハス又  
附屬地内ニ於テハ其何レノ国民ノ所有ニ屬スルニ論ナク總  
テ支那官憲ニ於テ徵發ノ權無キハ既ニ明白ノ事理ニ屬ス今  
後支那軍憲ニシテ之ヲ犯サントスル危險アルトキハ日本領  
事ヨリ直接該軍隊ニ警告ヲ与フル事アルヘシ

(五)前記邦人所有又ハ賃借ノ馬車ニ對シ我官憲ヨリ一定  
烙印アル証標ヲ与ヘ道尹又之ニ一定烙印ヲ与ヘテ徵發不能  
ノ証左トスヘキ件ヲ直チニ実行スルハ支那側ニ於テ異存無  
シ(此方法ハ近々実施ノ筈)

而シテ前記(二)ノ点ニ関シ吉林督軍ニ於テ既ニ実行ニ着手中

ナルハ本月三日附機密第三二号拙信所報ノ通りニ有之候該改善方法ナルモノハ其後精査ノ末結局左記ノ趣旨ヲ規定シ各關係官憲ニ通訓シタルモノノ由ニテ之ヲ通覽スルニ結果ニ於テ略ホ我が要求ニ適応シ居リ随テ馬車徵發ノ件ハ取極ノ形ヲ残サスト雖モ猶其果果ヲ拳ケ得タルモノト認メ差支可無之候尤モ本件ハ全然支那側ニ於ケル自發的改善ヲ基礎トシ前記新徵發規則モ故テ寛城子問題解決前恰モ我方ノ要求ニ關係ナキ形ニテ飽マテ自發的ニ發布シ居レル訳合ニ付之カ交渉ノ結果御發表方必要ノ節ハ此ノ点特ニ御留意ヲ相煩度候

右重複ノ点不尠ルモ為念及報告候 敬具

左記

陸軍馬車雇用章程

- 一、軍隊ノ行軍ニ際シ軍需品輸送ノ為メ車輛ノ必要アルトキハ市中ニ在リテハ県知事ニ町村ニ在リテハ董事会或ハ保衛団ニ通知シテ代テ雇入ルルコトトシ直接強制徵發スルコトヲ得ス
- 二、各県知事董事会保衛団ハ軍隊ノ長官ヨリ車輛雇入方ノ通知アリタルトキハ直ニ之ヲ取扱ヒ軍務ヲ誤シムルコト

シ新章程ノ弁法ヲ詳細説明シ以テ誤会ヲ避クルモノトス  
写送付先 在支公使

ヲ得ス

- 三、車輛ノ雇入ハ百斤百支里ニ付大洋五十仙ヲ支払ヒ且ツ車輛ノ積載力ヲ視テ裝運シ過重ニ積載シテ車体ヲ毀損スルコトヲ得ス
- 四、督軍公署ニ三聯單ヲ備ヘ置キ之ヲ駐防軍隊ニ發給シ車輛雇入ノトキ當該管長ハ一聯ヲ車輛主又ハ車夫ニ交付シ一聯ハ督軍公署ニ報告シ一聯ハ県署ニ交付スルモノトス
- 五、車輛主車夫取扱人ニシテ運送目的地ニ到達シタル後ハ當該軍隊長官ハ書付ニ依リ馬車賃ヲ支払ヒ滞リ又ハ値引スルコトヲ得ス
- 六、車輛主又ハ車夫ハ運賃ヲ受取リタルトキハ領收ノ旨ヲ聯單ノ上ニ記入シ調印又ハ署名スルモノトシ當該軍隊長官ハ此書付ヲ取纏メ督軍公署ニ報告スルモノトス
- 七、軍隊長官ニシテ若シ運賃ヲ給セス車輛主又ハ車夫ヲ強制シテ領收ノ旨ヲ記入調印署名セシメタル者アルトキハ被害者ヨリ指名控告ヲ准ス省城ヨリ遠キ地方ニ在リテハ県署ニ控告シ同署ヨリ省長公署ニ転報シテ以テ究弁スルモノトス
- 八、県知事董事会保衛団ハ車輛雇入ノ場合民間車輛主ニ對